

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長殿

【提出日】 平成27年 8月17日

【発行者名】 J P モルガン・アセット・マネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 サイモン・エフ・ウォールズ

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング

【事務連絡者氏名】 内藤 敏信  
(連絡場所)  
東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 東京ビルディング

【電話番号】 03 - 6736 - 2000

【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 J P Mアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）  
J P Mアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）

【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】 J P Mアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）につき、2,000億円を上限とします。  
J P Mアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）につき、2,000億円を上限とします。

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

## 【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、有価証券報告書を提出いたしましたので、平成27年2月16日付で提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報に訂正するため、また記載事項の一部訂正を行うため、訂正届出書を提出いたします。

## 【訂正の内容】

### 第二部【ファンド情報】

#### 第1【ファンドの状況】

##### 1【ファンドの性格】

###### （1）ファンドの目的及び基本的性格

<訂正前>

###### （イ）ファンドの目的

当ファンドは、アジア各国の高利回り社債（ハイ・イールド債）等\*1を実質的な主要投資対象として運用\*2を行い、安定的かつ高水準の配当等収益\*3の確保と信託財産の中長期的な成長を図ることを目的とします。

\*1 後記（二）ファンドの特色 をご参照ください。（以下同じ。）

\*2 運用は、当ファンドと実質的に同一の運用の基本方針を有するJPMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用）（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象として行います。

（略）

###### （ニ）ファンドの特色

（略）

当ファンドは、毎月16日\*の決算時に、配当等収益を中心に分配します。

ただし、必ず分配を行うものではありません。

\* 16日が休業日の場合は翌営業日となります。

<分配金お支払いのイメージ図>

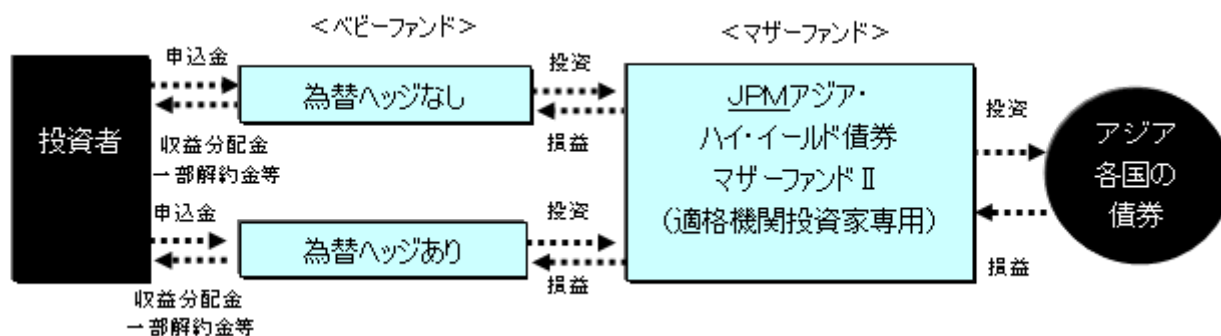


前図はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について、示唆、保証するものではありません。

（略）

当ファンドの運用はファミリーファンド方式\*により、マザーファンドを通じて行います。

（略）



（略）

マザーファンドの運用の指図に関する権限をJFアセット・マネジメント・リミテッド\*（香港法人）に委託します。（以下「運用委託先」という場合があります。）

「J Pモルガン・アセット・マネジメント」グループ\*のグローバルなネットワークを活用し、運用を行います。

\* J Fアセット・マネジメント・リミテッドおよび委託会社は、「J Pモルガン・アセット・マネジメント」グループの一員です。『「J Pモルガン・アセット・マネジメント」グループ』とは、「J Pモルガン・チェース・アンド・カンパニー」の傘下にあり、直接または間接的に資本関係のある運用会社を総称するものです。

<訂正後>

### (イ) ファンドの目的

当ファンドは、アジア各国の高利回り社債（ハイ・イールド債）等\*1を実質的な主要投資対象として運用\*2を行い、安定的かつ高水準の配当等収益\*3の確保と信託財産の中長期的な成長を図ることを目的とします。

\*1 後記（二）ファンドの特色 をご参照ください。（以下同じ。）

\*2 運用は、当ファンドと実質的に同一の運用の基本方針を有するGIMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用）（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象として行います。

（略）

### (ニ) ファンドの特色

（略）

当ファンドは、毎月16日\*の決算時に、配当等収益を中心に分配します。

ただし、必ず分配を行うものではありません。

\* 16日が休業日の場合は翌営業日となります。

<分配金お支払いのイメージ図>

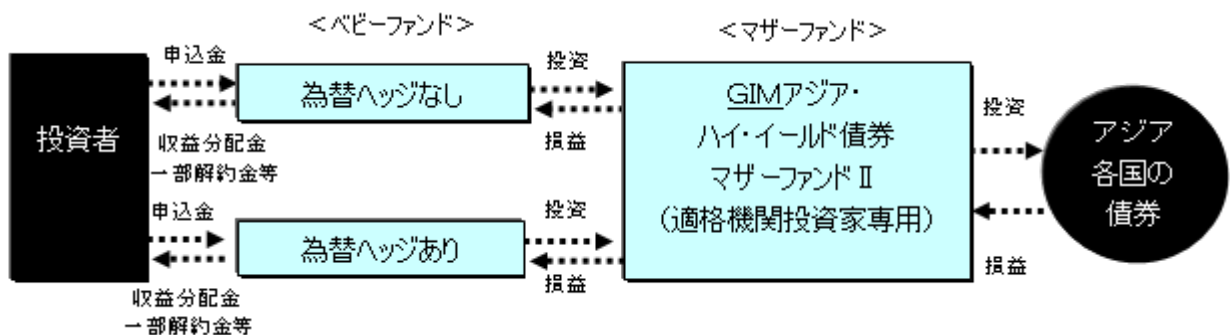


前図はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

（略）

当ファンドの運用はファミリーファンド方式\*により、マザーファンドを通じて行います。

（略）



（略）

マザーファンドの運用の指図に関する権限をJ Fアセット・マネジメント・リミテッド\*（香港法人）に委託します。（以下「運用委託先」という場合があります。）

J . P . モルガン・アセット・マネジメント\*のグローバルなネットワークを活用し、運用を行います。

\* J . P . モルガン・アセット・マネジメントは、J Pモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。J Fアセット・マネジメント・リミテッドおよび委託会社は、J . P . モルガン・アセット・マネジメントの一員です。

## (2) 【ファンドの沿革】

<訂正前>

平成24年2月21日 当ファンドおよびマザーファンドの信託契約締結、ならびに設定・運用開始

<訂正後>

平成24年2月21日 当ファンドおよびマザーファンドの信託契約締結、ならびに設定・運用開始

平成27年5月29日 マザーファンドの名称変更

(3) ファンドの仕組み

<訂正前>

(略)

(八) 委託会社の概況

資本金 2,218百万円(平成26年12月末現在)

(略)

大株主の状況(平成26年12月末現在)

(以下略)

<訂正後>

(略)

(八) 委託会社の概況

資本金 2,218百万円(平成27年6月末現在)

(略)

大株主の状況(平成27年6月末現在)

(以下略)

2【投資方針】

(1) 投資方針

<訂正前>

(略)

(ロ) 投資態度

マザーファンドにおける運用プロセスは次のとおりです。

なお、資金動向や市況動向により、次のような運用ができない場合があります。

運用委託先であるJFアセット・マネジメント・リミテッドのグローバル債券運用グループに所属する「エマージング債券運用チーム」\*が運用を担当し、以下のプロセスにしたがい運用を行います。

経済成長・市況動向の予測

エマージング債券運用チームの運用チーム\*に所属するポートフォリオ・マネジャーは、アジア各国を含む世界の景気サイクル、債券市場の流動性、債務不履行の率、金利等を分析し、金融政策や経済指標等を踏まえ、今後の経済成長や市況動向を予測します。

投資対象企業の分析・投資対象の絞り込み

エマージング債券運用チームのエマージング調査チーム\*に所属するアナリストは、後記のとおり分析を行ったうえで、投資対象銘柄を絞り込みます。その際、「J Pモルガン・アセット・マネジメント」グループのグローバル・エマージング・マーケット株式運用グループから銘柄情報の提供を受け、それを参考にします。

投資対象企業およびその業種の信用力を分析し、債務不履行となるリスクの高い企業を投資対象から排除します。

投資対象企業の業種毎に投資魅力度を分析し、銘柄毎に同業他社と比較することにより相対的な割安度を分析し、投資対象となる銘柄の候補を絞り込みます。外部調査機関の信用情報に偏重することなく、「J Pモルガン・アセット・マネジメント」グループ独自の調査を利用します。

## ポートフォリオの構築

前記 および の結果を踏まえ、ポートフォリオ・マネジャーとアナリストは、ポートフォリオの投資銘柄選定について議論し、マザーファンドのポートフォリオ・マネジャーは、その結果を踏まえ、ポートフォリオを構築します。業種・銘柄ともに幅広い銘柄がマザーファンドに組み入れられます。

\* 詳しくは、後記「(3)運用体制」をご参照ください。  
(以下略)

<訂正後>

(略)

(ロ)投資態度

マザーファンドにおける運用プロセスは次のとおりです。

なお、資金動向や市況動向により、次のような運用ができない場合があります。

運用委託先であるJFアセット・マネジメント・リミテッドのグローバル債券運用グループに所属する「エマージング債券運用チーム」\*<sub>1</sub>が運用を担当し、以下のプロセスにしたがい運用を行います。

### 経済成長・市況動向の予測

エマージング債券運用チームの運用チーム\*<sub>1</sub>に所属するポートフォリオ・マネジャーは、アジア各国を含む世界の景気サイクル、債券市場の流動性、債務不履行の率、金利等を分析し、金融政策や経済指標等を踏まえ、今後の経済成長や市況動向を予測します。

### 投資対象企業の分析・投資対象の絞り込み

エマージング債券運用チームのエマージング調査チーム\*<sub>1</sub>に所属するアナリストは、後記のとおり分析を行ったうえで、投資対象銘柄を絞り込みます。その際、J.P.モルガン・アセット・マネジメントのエマージング・マーケット・アンド・アジア・パシフィック・エクイティーズ・チーム(以下「EMAP」といいます。)\*<sub>2</sub>から銘柄情報の提供を受け、それを参考にします。

投資対象企業およびその業種の信用力を分析し、債務不履行となるリスクの高い企業を投資対象から排除します。

投資対象企業の業種毎に投資魅力度を分析し、銘柄毎に同業他社と比較することにより相対的な割安度を分析し、投資対象となる銘柄の候補を絞り込みます。外部調査機関の信用情報に偏重することなく、J.P.モルガン・アセット・マネジメント独自の調査を利用します。

## ポートフォリオの構築

前記 および の結果を踏まえ、ポートフォリオ・マネジャーとアナリストは、ポートフォリオの投資銘柄選定について議論し、マザーファンドのポートフォリオ・マネジャーは、その結果を踏まえ、ポートフォリオを構築します。業種・銘柄ともに幅広い銘柄がマザーファンドに組み入れられます。

\*<sub>1</sub> 詳しくは、後記「(3)運用体制」をご参照ください。

\*<sub>2</sub> J.P.モルガン・アセット・マネジメント内で横断的に構成された、新興国および日本を含むアジア太平洋地域の各国への投資を担当するチームです。

(以下略)

(2)投資対象

<訂正前>

(略)

(参考)マザーファンドの投資対象

- (イ) マザーファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。(「JPMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド(適格機関投資家専用)信託約款(以下「マザーファンド信託約款」といいます。))  
(以下略)

<訂正後>

(略)

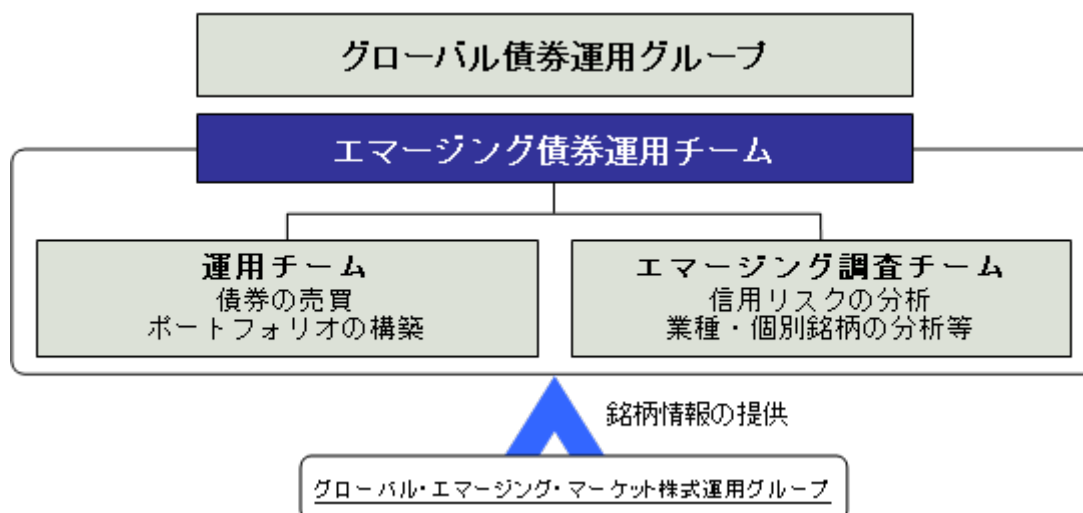
(参考) マザーファンドの投資対象

- (イ) マザーファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。(「GIMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド(適格機関投資家専用)信託約款(以下「マザーファンド信託約款」といいます。))  
(以下略)

(3) 運用体制

<訂正前>

- 当ファンドの主要投資先であるマザーファンドにおける運用体制



「JPMモルガン・アセット・マネジメント」グループ内で組織されるグローバル債券運用グループに所属する、JFアセット・マネジメント・リミテッドのエマージング債券運用チーム(約10名)が運用を担当します。同チームはエマージング調査チームと運用チームにより構成されています。

エマージング調査チームは、信用リスクの分析と業種・個別銘柄の分析等を行います。その際、「JPMモルガン・アセット・マネジメント」グループのグローバル・エマージング・マーケット株式運用グループから銘柄情報の提供を受け、それを参考にします。

運用チームに所属するマザーファンドのポートフォリオ・マネジャーは、経済成長・市況動向の予測とエマージング調査チームの分析を組み合わせた結果をもとに、個別銘柄の売買を行い、最適なポートフォリオの構築を行います。

JFアセット・マネジメント・リミテッドの運用部門から独立した以下の部門(「JPMモルガン・アセット・マネジメント」グループの一員であるJ.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク(米国法人)から実務面の助力を得ている場合があります。)が以下に掲げる事項その他のリスク管理を行います。

(略)

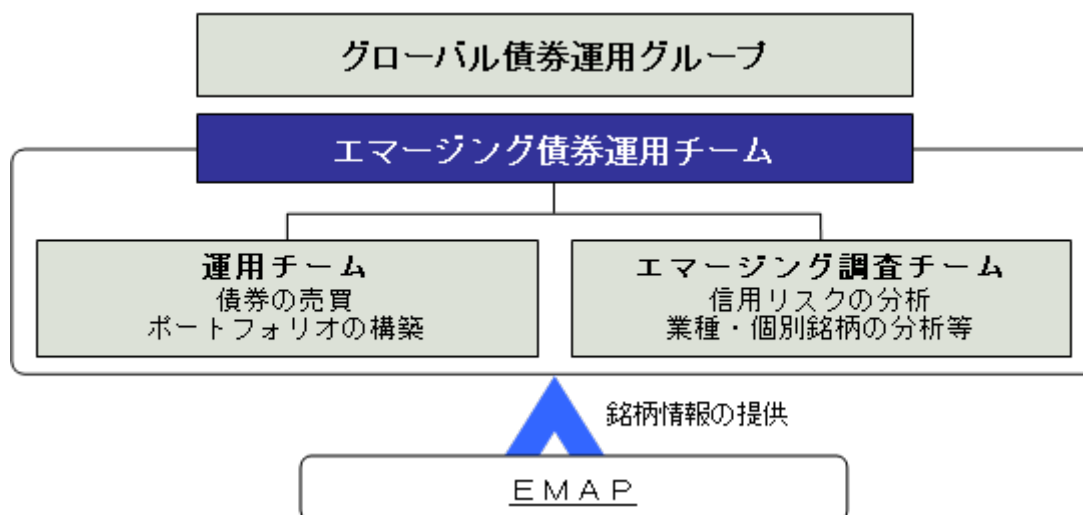
(注1) 運用体制については、JFアセット・マネジメント・リミテッドおよびJ.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インクを含めた「JPMモルガン・アセット・マネジメント」グループのものを記載しています。

(注2) 前記の運用体制、組織名称等は、平成26年9月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(以下略)

<訂正後>

- 当ファンドの主要投資先であるマザーファンドにおける運用体制



J.P.モルガン・アセット・マネジメント内で組織されるグローバル債券運用グループに所属する、JFアセット・マネジメント・リミテッドのエマージング債券運用チーム（約10名）が運用を担当します。同チームはエマージング調査チームと運用チームにより構成されています。

エマージング調査チームは、信用リスクの分析と業種・個別銘柄の分析等を行います。その際、J.P.モルガン・アセット・マネジメントのEMAPから銘柄情報の提供を受け、それを参考にします。

運用チームに所属するマザーファンドのポートフォリオ・マネジャーは、経済成長・市況動向の予測とエマージング調査チームの分析を組み合わせた結果をもとに、個別銘柄の売買を行い、最適なポートフォリオの構築を行います。

JFアセット・マネジメント・リミテッドの運用部門から独立した以下の部門（J.P.モルガン・アセット・マネジメントの一員であるJ.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク（米国法人）から実務面の助力を得ている場合があります。）が以下に掲げる事項その他のリスク管理を行います。

（略）

（注1）運用体制については、JFアセット・マネジメント・リミテッドおよびJ.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インクを含めたJ.P.モルガン・アセット・マネジメントのものを記載しています。

（注2）前記の運用体制、組織名称等は、平成27年6月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

（以下略）

## （5）投資制限

<訂正前>

（イ）信託約款は、委託会社による当ファンドの運用に関して以下のような一定の制限および限度を定めています。

（略）

（参考）マザーファンドの投資制限

（略）

デリバティブ取引等の市場リスク量の管理

有価証券についての有価証券関連デリバティブ取引、有価証券関連デリバティブ取引以外のデリバティブ取引（あわせてに定める取引をいいます。）、ならびにマザーファンド信託約款第17条第1項第11号および第16号に定める有価証券にかかる取引（以下あわせてにおいて「デリバティブ取引等」といいます。）を行う場合は、デリバティブ取引等による投資についてのリスク量（以下において「市場リスク量」といいます。）が、信託財産の純資産総額の80%以内となるよう管理するものとします。ただし、実際にはデリバティブ取引等を行っていない場合には、当該管理を行わないことができます。市場リスク量は、平成19年金融庁告示第59号「金融商品取引業者の市場リスク相当額、取引先リスク相当額及び基礎的リスク相当額の算出の基準等を定める件」における「市場リスク相当額」の算出方

法のうち、内部管理モデル方式(バリュー・アット・リスク方式)による市場リスク相当額の算出方法を参考に算出するものとします。

(以下略)

<訂正後>

(イ) 信託約款は、委託会社による当ファンドの運用に関して以下のような一定の制限および限度を定めています。

(略)

(参考) マザーファンドの投資制限

(略)

デリバティブ取引等の市場リスク量の管理

有価証券についての有価証券関連デリバティブ取引、有価証券関連デリバティブ取引以外のデリバティブ取引、ならびにマザーファンド信託約款第17条第1項第11号および第16号に定める有価証券にかかる取引(以下あわせて において「デリバティブ取引等」といいます。)を行う場合は、デリバティブ取引等による投資についてのリスク量(以下 において「市場リスク量」といいます。)が、信託財産の純資産総額の80%以内となるよう管理するものとします。ただし、実際にはデリバティブ取引等を行っていない場合には、当該管理を行わないことができます。市場リスク量は、平成19年金融庁告示第59号「金融商品取引業者の市場リスク相当額、取引先リスク相当額及び基礎的リスク相当額の算出の基準等を定める件」における「市場リスク相当額」の算出方法のうち、内部管理モデル方式(バリュー・アット・リスク方式)による市場リスク相当額の算出方法を参考に算出するものとします。

(以下略)

### 3【投資リスク】

#### (1) リスク要因

原届出書の「第二部ファンド情報 第1ファンドの状況 3投資リスク (1)リスク要因」の末尾に記載される「参考情報」について以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>



## 参考情報

下記グラフは、ファンドの投資リスクをご理解いただくための情報の一つとしてご利用ください。

### JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド(為替ヘッジなし)

#### ＜ファンドの分配金再投資基準価額・年間騰落率の推移＞

2010年6月～2015年5月の5年間における、ファンドの分配金再投資基準価額(日次)と、年間騰落率(毎月末時点)の推移を示したものです。



#### ＜ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較＞

左のグラフと同じ期間における年間騰落率(毎月末時点)の平均と振れ幅を、ファンドと代表的な資産クラスとの間で比較したものです。



### JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド(為替ヘッジあり)

#### ＜ファンドの分配金再投資基準価額・年間騰落率の推移＞

2010年6月～2015年5月の5年間における、ファンドの分配金再投資基準価額(日次)と、年間騰落率(毎月末時点)の推移を示したものです。



#### ＜ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較＞

左のグラフと同じ期間における年間騰落率(毎月末時点)の平均と振れ幅を、ファンドと代表的な資産クラスとの間で比較したものです。



(ご注意)

- 分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後のもので、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。
  - ファンドの年間騰落率(毎月末時点)は、毎月末とその1年前における分配金再投資基準価額を対比して、その騰落率を算出したものです。(月末が休日の場合は直前の営業日を月末とみなします。設定から1年未満の時点では算出されません。)
  - 代表的な資産クラスの年間騰落率(毎月末時点)は、毎月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。(月末が休日の場合は直前の営業日を月末とみなします。)
  - ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の毎月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。ただし、ファンドは設定から6年未満で、設定日から2013年1月末までは年間騰落率が算出されないことから、それ以降の毎月末時点における年間騰落率を用いています。
  - ファンドの分配金再投資基準価額および年間騰落率は、実際の基準価額およびそれに基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
  - ファンドは、代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。
  - 代表的な資産クラスを表す指数
    - 日本株・・・TOPIX(配当込み)
    - 先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)
    - 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)
    - 日本国債・・・NOMURA-BPI(国債)
    - 先進国債・・・シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
    - 新興国債・・・JPモルガンGBI-エマージング・マーケット・グローバル(円ベース)
- (注) 海外の指数は、為替ヘッジを行わないものとして算出されたものです。なお、MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、委託会社で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、株東京証券取引所が有しています。なお、ファンドは、株東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、株東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

MSCIコクサイ指数およびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が発表しています。同インデックスに関する情報の確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。著作権はMSCI Inc.に帰属しています。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、同社が発表したMSCIコクサイ指数(配当込み、米ドルベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、米ドルベース)を委託会社にて円ベースに換算したものです。

NOMURA-BPI(国債)は、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権はCitigroup Index LLCに帰属しています。

JPモルガンGBI-エマージング・マーケット・グローバルは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

## ( 2 ) 投資リスクに関する管理体制

## &lt; 訂正前 &gt;

( 略 )

( 平成26年9月末現在 )

( 以下略 )

## &lt; 訂正後 &gt;

( 略 )

( 平成27年6月末現在 )

( 以下略 )

## 4 【手数料等及び税金】

## ( 4 ) その他の手数料等

## &lt; 訂正前 &gt;

( 略 )

2 委託会社は、当ファンドの目論見書の印刷に要する実費相当額について、原則として、当ファンドの信託財産中から支弁を受けるものとします。(ただし、信託約款第36条第3項に規定する場合を除きます。)

委託会社は、当該実費相当額の支弁を、毎計算期間終了日および信託終了日の翌営業日以降、当ファンドの信託財産中から受けるものとします。当該実費相当額は、計算期間を通じて所定の額を毎日費用計上するものとします。(詳細については信託約款第36条第4項および第5項をご参照ください。)

前記1の費用等は、当ファンドおよびマザーファンドの運用状況、保有銘柄、投資比率等により変動し、事前に確定しておらず、また、銘柄ごとに種類、金額および算出方法が異なり、費用等の概要を適切に記載することが困難なことから、具体的な種類、金額および計算方法を記載していません。また、前記2の実費相当額は、実際にかかる費用が目論見書ごとに異なることから、具体的に記載していません。前記1および2の費用等の合計額は、受益者が当ファンドの受益権を保有する期間その他の要因により変動し、表示することができないことから、記載していません。当該費用等は、認識された時点で、当ファンドおよびマザーファンドの計理基準にしたがい信託財産に計上されます。当該費用等は、当ファンドにおいて間接的にご負担いただきます。

( 以下略 )

## &lt; 訂正後 &gt;

( 略 )

2 委託会社は、当ファンドの目論見書の印刷に要する実費相当額について、原則として、当ファンドの信託財産中から支弁を受けるものとします。(ただし、信託約款第36条第3項に規定する場合を除きます。)

委託会社は、当該実費相当額の支弁を、毎計算期間終了日および信託終了日の翌営業日以降、当ファンドの信託財産中から受けるものとします。当該実費相当額は、計算期間を通じて所定の額を毎日費用計上するものとします。(詳細については信託約款第36条第4項および第5項をご参照ください。)

前記1の費用等は、当ファンドおよびマザーファンドの運用状況、保有銘柄、投資比率等により変動し、事前に確定しておらず、また、銘柄ごとに種類、金額および算出方法が異なり、費用等の概要を適切に記載することが困難なことから、具体的な種類、金額および計算方法を記載していません。また、前記2の実費相当額は、実際にかかる費用が目論見書ごとに異なることから、具体的に記載していません。さらに、前記1および2の費用等の合計額は、受益者が当ファンドの受益権を保有する期間その他の要因により変動し、表示することができないことから、記載していません。当該費用等は、認識された時点で、

当ファンドおよびマザーファンドの計理基準にしたがい信託財産に計上されます。当該費用等は、当ファンドにおいて間接的にご負担いただきます。

（以下略）

## （５）課税上の取扱い

### <訂正前>

日本の居住者（法人を含みます。）である受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります。

なお、税法が改正された場合には、以下の内容が変更になることがあります。以下の税制は平成26年12月末現在適用されるものです。

#### 個別元本について

（略）

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、後記の「収益分配金の課税について」をご参照ください。）

#### 収益分配金の課税について

（略）

#### 法人、個人別の課税の取扱いについて

##### （a）個人の受益者に対する課税

（略）

##### （ハ）損益通算について

公募株式投資信託\*1（当ファンドを含みます。以下同じ。）の一部解約時、償還時および買取請求時の差損、ならびにその他の上場株式等\*2の譲渡損は、一定の条件の下で公募株式投資信託の一部解約時、償還時および買取請求時の差益ならびに収益分配金、ならびにその他の上場株式等の譲渡益および配当金と損益通算が可能です。また、ある年における損益通算の結果、譲渡益等から控除しきれない損失がある場合は、その翌年以降3年間当該損失を繰越して、同様の損益通算において控除の対象とすることができます。損益通算の条件等については、税務専門家（税務署等）または販売会社にご確認ください。

\*1 「公募株式投資信託」とは、不特定多数の投資者を対象に販売することを目的として設定され、信託約款上において債券以外の組入れが可能である投資信託をいいます。

\*2 「上場株式等」とは、上場株式、上場特定株式投資信託（ETF）、上場特定不動産投資信託（REIT）および公募株式投資信託等をいいます。詳しくは税務専門家（税務署等）にお問い合わせください。

##### （ニ）少額投資非課税制度（愛称：「NISA（ニーサ）」）について

公募株式投資信託は、税法上の少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISA（ニーサ）をご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに取得した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、その年の1月1日現在満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。なお、NISA（ニーサ）をご利用の場合、非課税口座で生じた配当所得および譲渡所得を、非課税口座以外で生じた配当所得および譲渡所得と損益通算することはできません。詳しくは、販売会社にご確認ください。

##### （b）法人の受益者に対する課税

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）\*の税率で源泉徴収され法人の受取額となります。なお、地方税の源泉徴収はありません。また、元本払戻金（特別分配金）は課税されません。益金不算入制度は適用されません。

\* 平成49年12月31日までの税率です。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家（税務署等）に確認することをお勧めします。

#### <訂正後>

日本の居住者（法人を含みます。）である受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります。

なお、税法が改正された場合には、以下の内容が変更になることがあります。以下の税制は平成27年6月末現在成立しているものです。

#### 個別元本について

（略）

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、後記「収益分配金の課税について」をご参照ください。）

#### 収益分配金の課税について

（略）

#### 法人、個人別の課税の取扱いについて

##### （a）個人の受益者に対する課税

（略）

##### （ハ）損益通算について

公募株式投資信託\*1（当ファンドを含みます。以下同じ。）の一部解約時、償還時および買取請求時の差損、ならびにその他の上場株式等\*2の譲渡損は、一定の条件の下で公募株式投資信託の一部解約時、償還時および買取請求時の差益ならびに収益分配金、ならびにその他の上場株式等の譲渡益および配当金と損益通算が可能です。また、ある年における損益通算の結果、譲渡益等から控除しきれない損失がある場合は、その翌年以降3年間当該損失を繰越して、同様の損益通算において控除の対象とすることができます。損益通算の条件等については、税務専門家（税務署等）または販売会社にご確認ください。

\*1 「公募株式投資信託」とは、不特定多数の投資者を対象に販売することを目的として設定され、信託約款上において債券以外の組入れが可能である投資信託をいいます。

\*2 「上場株式等」とは、上場株式、上場特定株式投資信託（ETF）、上場特定不動産投資信託（REIT）および公募株式投資信託等をいいます。詳しくは税務専門家（税務署等）にお問い合わせください。

#### <平成28年1月1日以降、以下の通り変更になります。>

公募株式投資信託\*1（当ファンドを含みます。以下同じ。）の配当所得および譲渡所得、ならびにその他の上場株式等\*2の利子所得、配当所得および譲渡所得の各所得間において損益通算が可能です。また、ある年における損益通算の結果、譲渡益等から控除しきれない損失がある場合は、その翌年以降3年間当該損失を繰越して、同様の損益通算において控除の対象とすることができます。損益通算の条件等については、税務専門家（税務署等）または販売会社にご確認ください。

\*1 「公募株式投資信託」とは、不特定多数の投資者を対象に販売することを目的として設定され、信託約款上において債券以外の組入れが可能である投資信託をいいます。

\*2 「上場株式等」とは、上場株式、上場特定株式投資信託（ETF）、上場特定不動産投資信託（REIT）および公募株式投資信託ならびに特定公社債および公募公社債投資信託等をいいます。詳しくは税務専門家（税務署等）にお問い合わせください。

##### （二）少額投資非課税制度について

公募株式投資信託は、税法上の少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISA（ニーサ）をご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに取得した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、その年の1月1日現在満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。なお、NISA（ニーサ）をご利用の場合、非課税口座で生じた配当所得および譲渡所得を、非課税口座以外で生じた配当所得および譲渡所得と損益通算することはできません。詳しくは、販売会社にご確認ください。

<平成28年1月1日以降、以下の通り変更になります。>

公募株式投資信託は、税法上の少額投資非課税制度である「NISA」および「ジュニアNISA」の適用対象です。毎年、NISAをご利用の場合は年間120万円の範囲で、またジュニアNISAをご利用の場合は年間80万円の範囲で、新たに取得した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、その年の1月1日現在、NISAをご利用の場合は満20歳以上の方、ジュニアNISAをご利用の場合は満20歳未満の方で、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。なお、少額投資非課税制度をご利用の場合、非課税口座で生じた配当所得および譲渡所得を、非課税口座以外で生じた配当所得および譲渡所得と損益通算することはできません。詳しくは販売会社にご確認ください。

#### (b) 法人の受益者に対する課税

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）\*の税率で源泉徴収され法人の受取額となります。なお、地方税の源泉徴収はありません。また、元本払戻金（特別分配金）は課税されません。益金不算入制度は適用されません。

\* 平成49年12月31日までの税率です。

（注）平成27年4月1日以後に開始する事業年度における益金不算入制度の適用はありません。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家（税務署等）に確認することをお勧めします。

## 5【運用状況】

原届出書の「第二部ファンド情報 第1ファンドの状況 5運用状況」について、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

#### (1) 投資状況

< JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）>

（平成27年6月19日現在）

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（%）
親投資信託受益証券	日本	821,396,840	100.01
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	113,271	0.01
合計（純資産総額）		821,283,569	100.00

（注）投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

親投資信託は、全て「GIMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用）」です（以下同じ）。

< JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）>

（平成27年6月19日現在）

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（%）
親投資信託受益証券	日本	1,161,080,568	98.67
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	15,596,963	1.33
合計（純資産総額）		1,176,677,531	100.00

（注）投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

（参考）GIMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用）

（平成27年6月19日現在）

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（%）
-------	------	---------	---------

社債券	アメリカ	1,346,354,294	67.91	
	イギリス	519,034,262	26.18	
	香港	24,780,470	1.25	
	小計	1,890,169,026	95.34	
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		-	92,329,052	4.66
合計(純資産総額)		1,982,498,078	100.00	

(注1) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(注2) 上記の「国/地域」は、マザーファンドが保有する有価証券の発行地または上場取引所の国/地域を表しています。  
具体的な投資対象については、「第1ファンドの状況 1ファンドの性格(1)ファンドの目的及び基本的性格  
(二)ファンドの特色」をご参照ください。

## (2) 投資資産

### 投資有価証券の主要銘柄

#### < JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド(為替ヘッジなし) >

(平成27年6月19日現在)

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	GIMアジア・ハイ・イールド債券 マザーファンド(適格機関投資家 専用)	411,872,256	1.9964	822,299,567	1.9943	821,396,840	100.01

#### < JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド(為替ヘッジあり) >

(平成27年6月19日現在)

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	GIMアジア・ハイ・イールド債券 マザーファンド(適格機関投資家 専用)	582,199,553	1.9964	1,162,361,399	1.9943	1,161,080,568	98.67

#### (参考) GIMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド(適格機関投資家専用)

(平成27年6月19日現在)

順位	国/地域	投資国	種類	銘柄名	券面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
1	アメリカ	中国	社債券	SHUI ON DEV 8.7% 18	600,000	12,420.98	74,525,880	12,451.72	74,710,350	8.7	2018/5/19	3.77
2	イギリス	インド	社債券	VEDANTA 8.25% REGS	500,000	12,231.59	61,157,954	12,571.01	62,855,078	8.25	2021/6/7	3.17
3	アメリカ	マカオ	社債券	STUDIO CITY 8.5% REGS	500,000	12,384.08	61,920,430	12,293.08	61,465,404	8.5	2020/12/1	3.10
4	アメリカ	中国	社債券	FOSUN INTL 6.875% EMTN	400,000	12,900.60	51,602,408	13,059.24	52,236,985	6.875	2020/1/30	2.63
5	イギリス	中国	社債券	ROAD KING 9.875% REGS	400,000	13,060.47	52,241,904	12,989.14	51,956,590	9.875	2017/9/18	2.62
6	アメリカ	中国	社債券	GREENTOWN CHINA 8.5%	400,000	12,835.42	51,341,691	12,900.60	51,602,408	8.5	2018/2/4	2.60
7	アメリカ	中国	社債券	YANLORD LAND 10.625%REGS	400,000	12,815.74	51,262,983	12,846.49	51,385,963	10.625	2018/3/29	2.59
8	アメリカ	中国	社債券	LONGFOR 6.875% EMTN	400,000	12,851.41	51,405,640	12,773.93	51,095,730	6.875	2019/10/18	2.58
9	アメリカ	インド ネシア	社債券	INDO ENERGY 7% REGS	500,000	10,924.31	54,621,567	10,176.59	50,882,975	7	2018/5/7	2.57
10	アメリカ	中国	社債券	CHINA SCE PPT 11.5% REGS	400,000	12,547.64	50,190,598	12,713.67	50,854,690	11.5	2017/11/14	2.57
11	アメリカ	中国	社債券	SOHO CHINA 5.75% REGS	400,000	12,671.85	50,687,437	12,541.50	50,166,002	5.75	2017/11/7	2.53
12	アメリカ	中国	社債券	SHIMAO PROPERTY 6.625%	400,000	12,515.67	50,062,699	12,475.09	49,900,365	6.625	2020/1/14	2.52
13	アメリカ	中国	社債券	FUFENG GROUP 7.625% REGS	400,000	12,515.67	50,062,699	12,467.71	49,870,850	7.625	2016/4/13	2.52
14	アメリカ	インド ネシア	社債券	JABABEKA INTL 7.5% REGS	400,000	12,390.23	49,560,940	12,082.78	48,331,140	7.5	2019/9/24	2.44
15	イギリス	中国	社債券	R&F PROP/CAIFU8.75% REGS	400,000	11,867.57	47,470,280	11,949.96	47,799,866	8.75	2020/1/24	2.41

16	アメリカ	中国	社債券	CENTRAL CHINA 6.5% EMTN	400,000	12,072.94	48,291,786	11,929.06	47,716,240	6.5	2018/6/4	2.41
17	イギリス	フィリピン	社債券	SAN MIGUEL 4.875% EMTN	400,000	11,973.33	47,893,331	11,893.39	47,573,583	4.875	2023/4/26	2.40
18	アメリカ	インドネシア	社債券	STAR ENERGY 6.125% REGS	400,000	12,282.01	49,128,050	11,851.58	47,406,330	6.125	2020/3/27	2.39
19	アメリカ	インドネシア	社債券	ALAM SYNERGY 6.95% REGS	400,000	11,943.81	47,775,270	11,820.83	47,283,350	6.95	2020/3/27	2.39
20	イギリス	香港	社債券	CITIC BK INTL VAR 24	300,000	13,188.37	39,565,126	13,005.13	39,015,405	6	2024/5/7	1.97
21	イギリス	中国	社債券	NWCL 5.375% EMTN	300,000	12,923.96	38,771,905	12,882.15	38,646,465	5.375	2019/11/6	1.95
22	アメリカ	中国	社債券	WEST CHINA CEMENT 6.5%	300,000	12,398.84	37,196,530	12,520.59	37,561,781	6.5	2019/9/11	1.89
23	アメリカ	中国	社債券	YUZHONG PRPTY 8.625%	300,000	12,428.35	37,285,076	12,213.14	36,639,431	8.625	2019/1/24	1.85
24	イギリス	中国	社債券	CITIC LTD VAR REGS	200,000	14,221.40	28,442,814	14,161.14	28,322,294	8.625	2049/12/29	1.43
25	イギリス	香港	社債券	NEW WORLD DEV/FITA 7%	200,000	13,968.06	27,936,137	13,857.38	27,714,773	7	2020/2/10	1.40
26	アメリカ	中国	社債券	CIFI HLDGS 12.25%	200,000	13,563.46	27,126,928	13,391.29	26,782,584	12.25	2018/4/15	1.35
27	イギリス	インドネシア	社債券	LIPPO/THETA 6.125% REGS	215,000	12,455.41	26,779,141	12,295.54	26,435,412	6.125	2020/11/14	1.33
28	アメリカ	中国	社債券	YUZHONG PRPTY 11.75% REGS	200,000	13,267.08	26,534,165	13,135.49	26,270,988	11.75	2017/10/25	1.33
29	アメリカ	中国	社債券	CNTRY GARDEN 7.875% REGS	200,000	13,083.84	26,167,684	13,102.28	26,204,578	7.875	2019/5/27	1.32
30	イギリス	香港	社債券	CITIC BK INTL VAR	200,000	13,142.87	26,285,746	12,981.76	25,963,538	7.25	2049/12/29	1.31

(注) 上記の「国/地域」は、マザーファンドが保有する有価証券の発行地または上場取引所の国/地域を表しています。なお、「投資国」は、「第1ファンドの状況 1ファンドの性格(1)ファンドの目的及び基本的性格(2)ファンドの特色」の記載に基づき、どこの国への投資であるかを委託会社が分類し、記載したものです。そのため、有価証券の発行地と実質的な事業活動が行われている地域が異なる場合等には、上記の「国/地域」と「投資国」における国/地域名が異なる場合があります。

#### 種類別投資比率

< JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし） >

（平成27年6月19日現在）

種類	投資比率（%）
親投資信託受益証券	100.01

< JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり） >

（平成27年6月19日現在）

種類	投資比率（%）
親投資信託受益証券	98.67

（参考）GIMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用）

（平成27年6月19日現在）

種類	投資比率（%）
社債券	95.34

#### 投資不動産物件

< JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし） >

該当事項はありません。

< JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり） >

該当事項はありません。

#### その他投資資産の主要なもの

< JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし） >

該当事項はありません。

< J P Mアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり） >

該当事項はありません。



## (3) 運用実績

## 純資産の推移

平成27年6月19日および同日前1年以内における各月末ならびに下記特定期間末の純資産の推移は次の通りです。

< J P M アジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし） >

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり 純資産額 (円) (分配落)	1口当たり 純資産額 (円) (分配付)
第1特定期間末	(平成24年5月16日)	489	493	1.0103	1.0168
第2特定期間末	(平成24年11月16日)	528	531	1.0713	1.0778
第3特定期間末	(平成25年5月16日)	3,011	3,027	1.2434	1.2499
第4特定期間末	(平成25年11月18日)	2,525	2,540	1.1149	1.1214
第5特定期間末	(平成26年5月16日)	1,794	1,804	1.1323	1.1388
第6特定期間末	(平成26年11月17日)	1,118	1,124	1.2921	1.2986
第7特定期間末	(平成27年5月18日)	830	834	1.3158	1.3223
	平成26年6月末日	1,630	-	1.1512	-
	平成26年7月末日	1,567	-	1.1742	-
	平成26年8月末日	1,404	-	1.1852	-
	平成26年9月末日	1,203	-	1.2289	-
	平成26年10月末日	1,160	-	1.2233	-
	平成26年11月末日	1,143	-	1.3138	-
	平成26年12月末日	1,050	-	1.2970	-
	平成27年1月末日	1,014	-	1.2677	-
	平成27年2月末日	1,040	-	1.2991	-
	平成27年3月末日	914	-	1.3018	-
	平成27年4月末日	835	-	1.3060	-
	平成27年5月末日	852	-	1.3643	-
	平成27年6月19日	821	-	1.3441	-

(注) 純資産総額(分配付)および1口当たり純資産額(分配付)は特定期間末日のものです。

## &lt; J P Mアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり） &gt;

期	年月日	純資産総額 （百万円） （分配落）	純資産総額 （百万円） （分配付）	1口当たり 純資産額 （円） （分配落）	1口当たり 純資産額 （円） （分配付）
第1特定期間末	(平成24年5月16日)	515	518	1.0023	1.0083
第2特定期間末	(平成24年11月16日)	3,459	3,479	1.0575	1.0635
第3特定期間末	(平成25年5月16日)	6,365	6,401	1.0676	1.0736
第4特定期間末	(平成25年11月18日)	4,385	4,412	0.9972	1.0032
第5特定期間末	(平成26年5月16日)	3,079	3,098	0.9959	1.0019
第6特定期間末	(平成26年11月17日)	1,691	1,701	0.9826	0.9886
第7特定期間末	(平成27年5月18日)	1,262	1,270	0.9608	0.9668
	平成26年6月末日	2,515	-	1.0148	-
	平成26年7月末日	2,301	-	1.0186	-
	平成26年8月末日	2,154	-	1.0189	-
	平成26年9月末日	1,872	-	0.9973	-
	平成26年10月末日	1,791	-	0.9929	-
	平成26年11月末日	1,635	-	0.9835	-
	平成26年12月末日	1,485	-	0.9491	-
	平成27年1月末日	1,424	-	0.9438	-
	平成27年2月末日	1,403	-	0.9574	-
	平成27年3月末日	1,324	-	0.9502	-
	平成27年4月末日	1,289	-	0.9603	-
	平成27年5月末日	1,238	-	0.9628	-
	平成27年6月19日	1,176	-	0.9524	-

(注) 純資産総額（分配付）および1口当たり純資産額（分配付）は特定期間末日のものです。

## 分配の推移

## &lt; JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）&gt;

期	1口当たり分配金（円）
第1 特定期間	0.0065
第2 特定期間	0.0390
第3 特定期間	0.1625
第4 特定期間	0.0625
第5 特定期間	0.0390
第6 特定期間	0.0390
第7 特定期間	0.0390

## &lt; JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）&gt;

期	1口当たり分配金（円）
第1 特定期間	0.0060
第2 特定期間	0.0360
第3 特定期間	0.0600
第4 特定期間	0.0360
第5 特定期間	0.0360
第6 特定期間	0.0360
第7 特定期間	0.0360

## 収益率の推移

## &lt; JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）&gt;

期	収益率（％）
第1 特定期間	1.68
第2 特定期間	9.90
第3 特定期間	31.23
第4 特定期間	5.31
第5 特定期間	5.06
第6 特定期間	17.56
第7 特定期間	4.85

（注）収益率とは特定期間末の基準価額（分配落）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落）（以下「前特定期間末基準価額」といいます。）を控除した額に特定期間中の分配金累計額を加算して得た額を前特定期間末基準価額で除したものです。

## &lt; JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）&gt;

期	収益率（％）
第1 特定期間	0.83
第2 特定期間	9.10
第3 特定期間	6.63
第4 特定期間	3.22
第5 特定期間	3.48
第6 特定期間	2.28
第7 特定期間	1.45

（注）収益率とは特定期間末の基準価額（分配落）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落）（以下「前特定期間末基準価額」といいます。）を控除した額に特定期間中の分配金累計額を加算して得た額を前特定期間末基準価額で除したものです。

## (4) 設定及び解約の実績

下記特定期間中の設定および解約の実績ならびに当該特定期間末の残存口数は次の通りです。

## &lt; J P M アジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし） &gt;

期	設定口数（口）	解約口数（口）	残存口数（口）
第1特定期間	485,816,252	917,184	484,899,068
第2特定期間	481,484,961	473,276,880	493,107,149
第3特定期間	3,125,631,288	1,196,568,903	2,422,169,534
第4特定期間	694,855,134	851,978,602	2,265,046,066
第5特定期間	385,001,901	1,065,143,655	1,584,904,312
第6特定期間	98,536,225	817,546,191	865,894,346
第7特定期間	76,752,216	311,194,850	631,451,712

(注1) 第1特定期間の設定口数には、当初申込期間中の設定口数を含みます。

(注2) 設定口数、解約口数は、全て本邦内におけるものです。

## &lt; J P M アジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり） &gt;

期	設定口数（口）	解約口数（口）	残存口数（口）
第1特定期間	514,067,836	-	514,067,836
第2特定期間	3,306,348,848	548,662,659	3,271,754,025
第3特定期間	5,749,969,399	3,058,695,323	5,963,028,101
第4特定期間	269,225,434	1,834,385,121	4,397,868,414
第5特定期間	65,278,924	1,370,498,137	3,092,649,201
第6特定期間	34,288,984	1,405,555,890	1,721,382,295
第7特定期間	16,036,484	423,530,868	1,313,887,911

(注1) 第1特定期間の設定口数には、当初申込期間中の設定口数を含みます。

(注2) 設定口数、解約口数は、全て本邦内におけるものです。

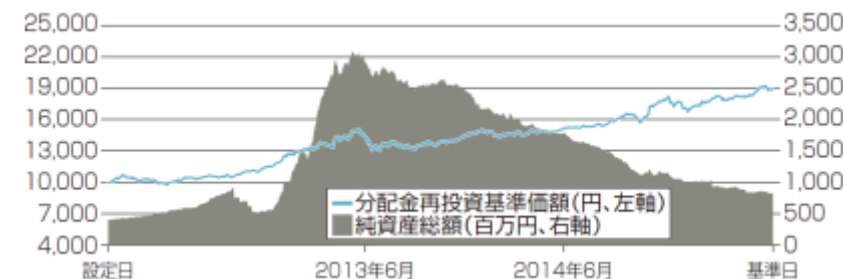
## &lt;参考情報&gt;

最新の運用実績は、委託会社ホームページ（<http://www.jpmorganasset.co.jp/>）、または販売会社でご確認いただけます。  
過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

## JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）

基準日	2015年6月19日	設定日	2012年2月21日
純資産総額	821百万円	決算回数	年12回

## 基準価額・純資産の推移



## 分配の推移

期	年月	円
36期	2015年2月	65
37期	2015年3月	65
38期	2015年4月	65
39期	2015年5月	65
40期	2015年6月	65
	設定来累計	3,940

\* 分配金は税引前1万口当たりの金額です。

\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

## 国別構成状況

投資国 1	投資比率 2
中国	61.5%
インドネシア	13.1%
インド	6.9%
香港	5.9%
マカオ	3.1%
その他	4.8%

## 通貨別構成状況

通貨	投資比率 2
米ドル	95.3%

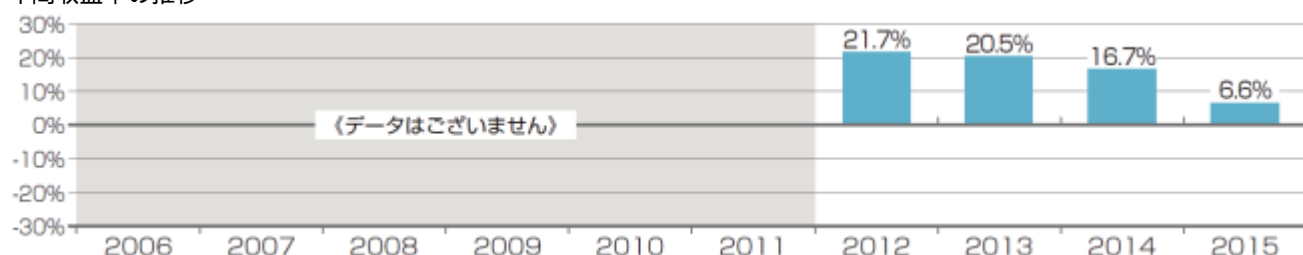
## 業種別構成状況

業種 3	投資比率 2
不動産	50.7%
鉱業	5.7%
銀行	4.5%
鉄鋼	3.9%
石炭	3.4%
その他	27.1%

## 組入上位銘柄

順位	銘柄名	業種*3	クーポン(%)	償還日	投資国*1	投資比率*2
1	スイオンランド	不動産	8.700	2018/5/19	中国	3.8%
2	ベダンタ・リソーシズ	鉱業	8.250	2021/6/7	インド	3.2%
3	メルコ・クラウン・エンターテインメント	ホテル	8.500	2020/12/1	マカオ	3.1%
4	フォーサン・インターナショナル	その他製品	6.875	2020/1/30	中国	2.6%
5	ロードキングインフラ	不動産	9.875	2017/9/18	中国	2.6%
6	グリーンタウン・チャイナ	不動産	8.500	2018/2/4	中国	2.6%
7	ヤンロード・ランド・グループ	不動産	10.625	2018/3/29	中国	2.6%
8	ロンフォー・プロパティーズ	不動産	6.875	2019/10/18	中国	2.6%
9	インディカ・エナジー	石炭	7.000	2018/5/7	インドネシア	2.6%
10	中駿置業控股	不動産	11.500	2017/11/14	中国	2.6%

## 年間収益率の推移



\* 年間収益率(%) = { (年末営業日の基準価額 + その年に支払われた税引前の分配金) ÷ 前年末営業日の基準価額 - 1 } × 100

\* 2012年の年間収益率は設定日から年末営業日、2015年の年間収益率は前年末営業日から2015年6月19日までのものです。

\* ベンチマークは設定していません。

\* 当ページにおける「ファンド」は、JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）です。

運用実績において、金額は表示単位以下を切捨て、投資比率および収益率は表示単位以下を四捨五入して記載しています。

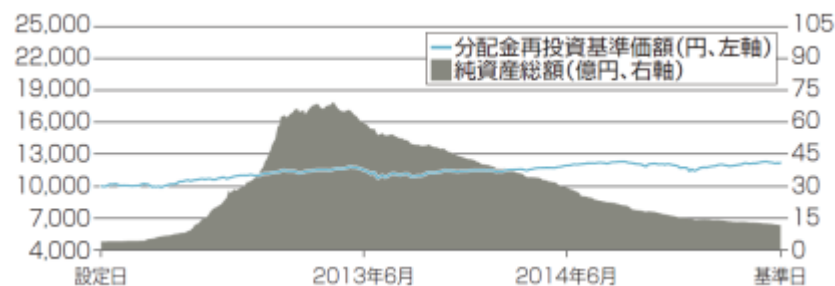
- 「投資国」は、「第1ファンドの状況 1 ファンドの性格 (1) ファンドの目的及び基本的性格 (2) ファンドの特色」の記載に基づき、どこの国への投資であるかを委託会社が分類し、記載したものです。
- ファンドはマザーファンドを通じて投資を行うため、マザーファンドの投資銘柄をファンドが直接保有しているものとみなし、ファンドの純資産総額に対する投資比率として計算しています。
- 業種はブルームバーグの分類に基づいていますが、委託会社の判断により分類したものが一部含まれます。

最新の運用実績は、委託会社ホームページ（<http://www.jpmorganasset.co.jp/>）、または販売会社でご確認いただけます。  
過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

## J P Mアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）

基準日	2015年6月19日	設定日	2012年2月21日
純資産総額	11億円	決算回数	年12回

### 基準価額・純資産の推移



### 分配の推移

期	年月	円
36期	2015年2月	60
37期	2015年3月	60
38期	2015年4月	60
39期	2015年5月	60
40期	2015年6月	60
	設定来累計	2,520

\* 分配金は税引前1万口当たりの金額です。

\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

### 国別構成状況

投資国 1	投資比率 2
中国	61.5%
インドネシア	13.1%
インド	6.9%
香港	5.9%
マカオ	3.1%
その他	3.6%

### 通貨別構成状況

通貨	投資比率 2
米ドル	94.1%

\* ファンドにおいて、為替ヘッジを行っています。

### 業種別構成状況

業種 3	投資比率 2
不動産	50.0%
鉱業	5.6%
銀行	4.4%
鉄鋼	3.8%
石炭	3.3%
その他	27.0%

### 組入上位銘柄

順位	銘柄名	業種 <sup>※3</sup>	クーポン(%)	償還日	投資国 <sup>※1</sup>	投資比率 <sup>※2</sup>
1	スイオンランド	不動産	8.700	2018/5/19	中国	3.8%
2	ベダンタ・リソーシズ	鉱業	8.250	2021/6/7	インド	3.2%
3	メルコ・クラウン・エンターテインメント	ホテル	8.500	2020/12/1	マカオ	3.1%
4	フォーサン・インターナショナル	その他製品	6.875	2020/1/30	中国	2.6%
5	ロードキングインフラ	不動産	9.875	2017/9/18	中国	2.6%
6	グリーンタウン・チャイナ	不動産	8.500	2018/2/4	中国	2.6%
7	ヤンロード・ランド・グループ	不動産	10.625	2018/3/29	中国	2.6%
8	ロンフォー・プロパティーズ	不動産	6.875	2019/10/18	中国	2.6%
9	インディカ・エナジー	石炭	7.000	2018/5/7	インドネシア	2.6%
10	中駿置業控股	不動産	11.500	2017/11/14	中国	2.6%

### 年間収益率の推移



\* 年間収益率(%) = { (年末営業日の基準価額 + その年に支払われた税引前の分配金) ÷ 前年末営業日の基準価額 - 1 } × 100

\* 2012年の年間収益率は設定日から年末営業日、2015年の年間収益率は前年末営業日から2015年6月19日までのものです。

\* ベンチマークは設定していません。

\* 当ページにおける「ファンド」は、「J P Mアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）」です。

運用実績において、金額は表示単位以下を四捨五入して記載しています。

- 「投資国」は、「第1ファンドの状況 1 ファンドの性格(1) ファンドの目的及び基本的性格(二) ファンドの特色」の記載に基づき、どこの国への投資であるかを委託会社が分類し、記載したものです。
- ファンドはマザーファンドを通じて投資を行うため、マザーファンドの投資銘柄をファンドが直接保有しているものとみなし、ファンドの純資産総額に対する投資比率として計算しています。
- 業種はブルームバーグの分類に基づいていますが、委託会社の判断により分類したものが一部含まれます。

## 第2【管理及び運営】

### 3【資産管理等の概要】

#### (5) その他

##### <訂正前>

(略)

反対受益者の換金について

前記 (a) b . または (b) における書面決議において、当ファンドの信託契約の解約または重大な約款の変更等を行うことが決議された場合に、当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買取るべき旨を請求することはできません。ただし、当該受益者は、前記「2 換金（解約）手続等」の通り、原則として毎営業日に自己に帰属する受益権を解約請求により換金することができます。

##### <訂正後>

(略)

反対受益者の換金について

前記 (a) b . または (b) における書面決議において、当ファンドの信託契約の解約または重大な約款の変更等を行うことが決議された場合に、当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買取るべき旨を請求することはできません。ただし、当該受益者は、前記「2 換金（解約）手続等」のとおり、原則として毎営業日に自己に帰属する受益権を解約請求により換金することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

原届出書の「第二部ファンド情報 第3ファンドの経理状況」について、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド(為替ヘッジなし)

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づき作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。

3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第7特定期間(平成26年11月18日から平成27年5月18日まで)の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。



## 1【財務諸表】

## 【JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）】

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 (平成26年11月17日現在)	当期 (平成27年5月18日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
親投資信託受益証券	1,126,150,406	836,246,254
未収入金	1,309,087	6,135,226
流動資産合計	1,127,459,493	842,381,480
資産合計	1,127,459,493	842,381,480
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	5,628,313	4,104,436
未払解約金	1,309,087	6,135,226
未払受託者報酬	43,122	32,384
未払委託者報酬	1,616,988	1,214,357
その他未払費用	21,549	16,184
流動負債合計	8,619,059	11,502,587
負債合計	8,619,059	11,502,587
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,865,894,346	1,631,451,712
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	252,946,088	199,427,181
（分配準備積立金）	125,308,422	97,708,645
元本等合計	1,118,840,434	830,878,893
純資産合計	1,118,840,434	830,878,893
負債純資産合計	1,127,459,493	842,381,480

## ( 2 ) 【損益及び剰余金計算書】

( 単位：円 )

	前期 (自 平成26年5月17日 至 平成26年11月17日)	当期 (自 平成26年11月18日 至 平成27年5月18日)
営業収益		
有価証券売買等損益	240,246,547	54,924,481
営業収益合計	240,246,547	54,924,481
営業費用		
受託者報酬	318,301	212,007
委託者報酬	1 11,936,247	1 7,950,152
その他費用	159,088	105,946
営業費用合計	12,413,636	8,268,105
営業利益	227,832,911	46,656,376
経常利益	227,832,911	46,656,376
当期純利益	227,832,911	46,656,376
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	21,336,242	4,877,713
期首剰余金又は期首欠損金 ( )	209,735,175	252,946,088
剰余金増加額又は欠損金減少額	16,525,053	22,827,764
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	16,525,053	22,827,764
剰余金減少額又は欠損金増加額	134,145,199	89,270,651
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	134,145,199	89,270,651
分配金	2 45,665,610	2 28,854,683
期末剰余金又は期末欠損金 ( )	252,946,088	199,427,181

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	当財務諸表対象期間
1. 有価証券の評価基準および評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日の取扱い 平成26年11月16日が休日のため、信託約款第34条により、第6特定期間末日を平成26年11月17日としております。また、平成27年5月16日および平成27年5月17日が休日のため、第7特定期間末日を平成27年5月18日としております。

## (貸借対照表に関する注記)

区分	前期 (平成26年11月17日現在)	当期 (平成27年5月18日現在)
1 信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額および期中解約元本額		
期首元本額	1,584,904,312円	865,894,346円
期中追加設定元本額	98,536,225円	76,752,216円
期中一部解約元本額	817,546,191円	311,194,850円
特定期間末日における受益権の総数	865,894,346口	631,451,712口
1口当たりの純資産額	1.2921円	1.3158円
(1万口当たりの純資産額)	(12,921円)	(13,158円)

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

区分	前期 (自 平成26年 5月17日 至 平成26年11月17日)	当期 (自 平成26年11月18日 至 平成27年 5月18日)
1 信託財産の運用の指図に関する権限の全部または一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額	純資産総額に年率0.35%を乗じて得た額	同左
2 分配金の計算過程	(自 平成26年 5月17日 至 平成26年 6月16日)	(自 平成26年11月18日 至 平成26年12月16日)
費用控除後の配当等収益額	10,523,526円	4,826,556円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	242,369,538円	146,226,958円
分配準備積立金額	53,271,489円	115,268,630円
当ファンドの分配対象収益額	306,164,553円	266,322,144円
当ファンドの期末残存口数	1,458,300,242口	831,489,064口
1万口当たり収益分配対象額	2,099.46円	3,202.95円
1万口当たり分配金額	65.00円	65.00円
収益分配金金額	9,478,951円	5,404,678円
	(自 平成26年 6月17日 至 平成26年 7月16日)	(自 平成26年12月17日 至 平成27年 1月16日)
費用控除後の配当等収益額	8,834,124円	5,013,332円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	231,038,264円	141,155,392円
分配準備積立金額	50,686,055円	110,058,026円
当ファンドの分配対象収益額	290,558,443円	256,226,750円
当ファンドの期末残存口数	1,384,324,458口	800,530,370口
1万口当たり収益分配対象額	2,098.91円	3,200.71円
1万口当たり分配金額	65.00円	65.00円
収益分配金金額	8,998,108円	5,203,447円
	(自 平成26年 7月17日 至 平成26年 8月18日)	(自 平成27年 1月17日 至 平成27年 2月16日)
費用控除後の配当等収益額	9,268,765円	6,065,481円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	212,842,198円	139,427,926円
分配準備積立金額	45,635,382円	108,005,239円
当ファンドの分配対象収益額	267,746,345円	253,498,646円
当ファンドの期末残存口数	1,270,423,718口	789,054,117口
1万口当たり収益分配対象額	2,107.53円	3,212.69円
1万口当たり分配金額	65.00円	65.00円
収益分配金金額	8,257,754円	5,128,851円
	(自 平成26年 8月19日 至 平成26年 9月16日)	(自 平成27年 2月17日 至 平成27年 3月16日)
費用控除後の配当等収益額	7,634,917円	4,918,663円

費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	30,939,886円	14,537,216円
収益調整金額	182,630,818円	126,027,061円
分配準備積立金額	39,906,817円	94,465,854円
当ファンドの分配対象収益額	261,112,438円	239,948,794円
当ファンドの期末残存口数	1,089,469,880口	700,319,530口
1万口当たり収益分配対象額	2,396.69円	3,426.27円
1万口当たり分配金額	65.00円	65.00円
収益分配金金額	7,081,554円	4,552,076円
	(自 平成26年9月17日 至 平成26年10月16日)	(自 平成27年3月17日 至 平成27年4月16日)
費用控除後の配当等収益額	5,440,006円	4,215,811円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	160,652,999円	125,604,909円
分配準備積立金額	62,517,639円	105,145,872円
当ファンドの分配対象収益額	228,610,644円	234,966,592円
当ファンドの期末残存口数	957,066,194口	686,337,742口
1万口当たり収益分配対象額	2,388.66円	3,423.48円
1万口当たり分配金額	65.00円	65.00円
収益分配金金額	6,220,930円	4,461,195円
	(自 平成26年10月17日 至 平成26年11月17日)	(自 平成27年4月17日 至 平成27年5月18日)
費用控除後の配当等収益額	6,860,612円	4,663,992円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	69,666,564円	999,606円
収益調整金額	146,886,120円	115,932,812円
分配準備積立金額	54,409,559円	96,149,483円
当ファンドの分配対象収益額	277,822,855円	217,745,893円
当ファンドの期末残存口数	865,894,346口	631,451,712口
1万口当たり収益分配対象額	3,208.50円	3,448.33円
1万口当たり分配金額	65.00円	65.00円
収益分配金金額	5,628,313円	4,104,436円

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する注記

	当財務諸表対象期間
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容およびそのリスク	当ファンドが保有した主な金融商品は、以下に記載される親投資信託受益証券であります。 JPMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用） 親投資信託の受益証券を主要投資対象として運用を行うため、親投資信託受益証券と同様のリスクを伴います。親投資信託受益証券には、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、流動性のリスクがあります。当該リスクは結果的に当ファンドに影響を及ぼします。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドで投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。 (1)運用部門から独立したインベストメント・ダイレクターは、パフォーマンス評価担当部署から報告を受け、運用成果（パフォーマンス）のモニターおよびリスク指標やリスク水準のチェックを行い、必要があれば是正を求めます。更に、投資制限の管理を行います。 (2)リスク管理部門は、投資制限遵守状況の管理等、運用状況の管理・監督を行っています。

## 金融商品の時価等に関する事項

	各特定期間末
1. 貸借対照表計上額、時価およびその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2)有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	前期 (平成26年11月17日現在)	当期 (平成27年5月18日現在)
	最終計算期間の損益に含まれた評価差額（円）	最終計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	116,952,730	11,379,010
合計	116,952,730	11,379,010

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

第１ 有価証券明細表（平成27年５月18日現在）

（イ）株式

該当事項はありません。

（ロ）株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	日本円	J P Mアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用）	431,032,552	836,246,254	
合計			431,032,552	836,246,254	

第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第３ デリバティブ取引および為替予約取引の契約額等および時価の状況表

該当事項はありません。

J P Mアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）

１．当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第２条の２の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

２．当ファンドの計算期間は６ヵ月未満であるため、財務諸表は６ヵ月毎に作成しております。

３．当ファンドは、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、第７特定期間（平成26年11月18日から平成27年５月18日まで）の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

## 【JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）】

## （１）【貸借対照表】

（単位：円）

	前期 (平成26年11月17日現在)	当期 (平成27年5月18日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
親投資信託受益証券	1,835,490,114	1,265,763,906
派生商品評価勘定	-	1,886,745
未収入金	25,524,531	13,808,641
流動資産合計	1,861,014,645	1,281,459,292
資産合計	1,861,014,645	1,281,459,292
<b>負債の部</b>		
流動負債		
派生商品評価勘定	10,777,934	-
未払金	121,840,602	-
未払収益分配金	10,328,293	7,883,327
未払解約金	23,943,213	9,351,849
未払受託者報酬	67,312	48,685
未払委託者報酬	2,524,167	1,825,675
その他未払費用	33,645	24,333
流動負債合計	169,515,166	19,133,869
負債合計	169,515,166	19,133,869
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,721,382,295	1,313,887,911
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2 29,882,816	2 51,562,488
（分配準備積立金）	1,749	2,671
元本等合計	1,691,499,479	1,262,325,423
純資産合計	1,691,499,479	1,262,325,423
負債純資産合計	1,861,014,645	1,281,459,292



## （ 2 ） 【 損益及び剰余金計算書 】

（ 単位：円 ）

	前期 (自 平成26年5月17日 至 平成26年11月17日)	当期 (自 平成26年11月18日 至 平成27年5月18日)
<b>営業収益</b>		
有価証券売買等損益	376,074,158	76,689,457
為替差損益	284,688,316	51,264,392
営業収益合計	91,385,842	25,425,065
<b>営業費用</b>		
受託者報酬	496,343	305,380
委託者報酬	1 18,612,917	1 11,451,737
その他費用	269,713	152,630
営業費用合計	19,378,973	11,909,747
営業利益	72,006,869	13,515,318
経常利益	72,006,869	13,515,318
当期純利益	72,006,869	13,515,318
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	6,112,862	415,521
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	12,812,237	29,882,816
剰余金増加額又は欠損金減少額	4,941,730	17,584,520
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	4,577,983	17,584,520
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	363,747	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	10,486,289	740,637
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	10,376,221	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	110,068	740,637
分配金	2 77,420,027	2 52,454,394
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	29,882,816	51,562,488

## ( 3 ) 【注記表】

## ( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

	当財務諸表対象期間
1. 有価証券の評価基準および評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準および評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。 為替予約の評価は、原則として、わが国における特定期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日の取扱い 平成26年11月16日が休日のため、信託約款第34条により、第6特定期間末日を平成26年11月17日としております。また、平成27年5月16日および平成27年5月17日が休日のため、第7特定期間末日を平成27年5月18日としております。

## ( 貸借対照表に関する注記 )

区分	前期 (平成26年11月17日現在)	当期 (平成27年5月18日現在)
1 信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額および期中解約元本額		
期首元本額	3,092,649,201円	1,721,382,295円
期中追加設定元本額	34,288,984円	16,036,484円
期中一部解約元本額	1,405,555,890円	423,530,868円
2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は29,882,816円です。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は51,562,488円です。
特定期間末日における受益権の総数	1,721,382,295口	1,313,887,911口
1口当たりの純資産額	0.9826円	0.9608円
(1万口当たりの純資産額)	(9,826円)	(9,608円)

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

区分	前期 (自 平成26年5月17日 至 平成26年11月17日)	当期 (自 平成26年11月18日 至 平成27年5月18日)
1 信託財産の運用の指図に関する権限の全部または一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額	純資産総額に年率0.35%を乗じて得た額	同左
2 分配金の計算過程	(自 平成26年5月17日 至 平成26年6月16日)	(自 平成26年11月18日 至 平成26年12月16日)
費用控除後の配当等収益額	17,119,326円	7,197,602円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	177,924,522円	99,962,924円
分配準備積立金額	4,347円	1,624円
当ファンドの分配対象収益額	195,048,195円	107,162,150円
当ファンドの期末残存口数	2,732,533,345口	1,599,862,446口
1万口当たり収益分配対象額	713.79円	669.82円
1万口当たり分配金額	60.00円	60.00円
収益分配金金額	16,395,200円	9,599,174円
	(自 平成26年6月17日 至 平成26年7月16日)	(自 平成26年12月17日 至 平成27年1月16日)
費用控除後の配当等収益額	13,678,453円	7,121,310円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	155,018,755円	94,020,332円
分配準備積立金額	634,009円	2,925円
当ファンドの分配対象収益額	169,331,217円	101,144,567円
当ファンドの期末残存口数	2,380,610,007口	1,541,576,798口
1万口当たり収益分配対象額	711.29円	656.11円
1万口当たり分配金額	60.00円	60.00円
収益分配金金額	14,283,660円	9,249,460円
	(自 平成26年7月17日 至 平成26年8月18日)	(自 平成27年1月17日 至 平成27年2月16日)
費用控除後の配当等収益額	12,359,886円	8,304,028円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	142,656,092円	89,129,044円
分配準備積立金額	26,364円	2,085円
当ファンドの分配対象収益額	155,042,342円	97,435,157円
当ファンドの期末残存口数	2,190,164,266口	1,495,116,149口
1万口当たり収益分配対象額	707.90円	651.68円
1万口当たり分配金額	60.00円	60.00円
収益分配金金額	13,140,985円	8,970,696円
	(自 平成26年8月19日 至 平成26年9月16日)	(自 平成27年2月17日 至 平成27年3月16日)
費用控除後の配当等収益額	10,063,161円	6,867,677円

費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	131,788,127円	84,431,691円
分配準備積立金額	2,835円	2,131円
当ファンドの分配対象収益額	141,854,123円	91,301,499円
当ファンドの期末残存口数	2,033,773,558口	1,426,876,318口
1万口当たり収益分配対象額	697.49円	639.86円
1万口当たり分配金額	60.00円	60.00円
収益分配金金額	12,202,641円	8,561,257円
	(自 平成26年9月17日 至 平成26年10月16日)	(自 平成27年3月17日 至 平成27年4月16日)
費用控除後の配当等収益額	8,963,112円	7,348,107円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	117,613,380円	79,159,765円
分配準備積立金額	2,614円	2,154円
当ファンドの分配対象収益額	126,579,106円	86,510,026円
当ファンドの期末残存口数	1,844,874,829口	1,365,080,003口
1万口当たり収益分配対象額	686.11円	633.73円
1万口当たり分配金額	60.00円	60.00円
収益分配金金額	11,069,248円	8,190,480円
	(自 平成26年10月17日 至 平成26年11月17日)	(自 平成27年4月17日 至 平成27年5月18日)
費用控除後の配当等収益額	10,075,634円	6,416,429円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	- 円	- 円
収益調整金額	107,799,812円	75,384,329円
分配準備積立金額	3,086円	1,956円
当ファンドの分配対象収益額	117,878,532円	81,802,714円
当ファンドの期末残存口数	1,721,382,295口	1,313,887,911口
1万口当たり収益分配対象額	684.78円	622.60円
1万口当たり分配金額	60.00円	60.00円
収益分配金金額	10,328,293円	7,883,327円

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する注記

	当財務諸表対象期間
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容およびそのリスク	<p>当ファンドが保有した主な金融商品は、以下に記載される親投資信託受益証券およびデリバティブ取引であります。</p> <p>JPMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用）</p> <p>親投資信託の受益証券を主要投資対象として運用を行うため、親投資信託受益証券と同様のリスクを伴います。親投資信託受益証券には、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、流動性のリスクがあります。当該リスクは結果的に当ファンドに影響を及ぼします。</p> <p>なお、デリバティブ取引は、通貨関連では信託財産の効率的な運用に資する目的ならびに外貨建資産の為替変動リスクの回避を目的として利用しております。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>当ファンドで投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。</p> <p>(1)運用部門から独立したインベストメント・ダイレクターは、パフォーマンス評価担当部署から報告を受け、運用成果（パフォーマンス）のモニターおよびリスク指標やリスク水準のチェックを行い、必要があれば是正を求めます。更に、投資制限の管理を行います。</p> <p>(2)リスク管理部門は、投資制限遵守状況の管理等、運用状況の管理・監督を行っています。</p>

## 金融商品の時価等に関する事項

	各特定期間末
1. 貸借対照表計上額、時価およびその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 「デリバティブ取引等に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3)有価証券およびデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券およびデリバティブ取引以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	前期 (平成26年11月17日現在)	当期 (平成27年5月18日現在)
	最終計算期間の損益に含まれた 評価差額（円）	最終計算期間の損益に含まれた 評価差額（円）
親投資信託受益証券	191,186,078	17,289,182
合計	191,186,078	17,289,182

## （デリバティブ取引等に関する注記）

## 取引の時価等に関する事項

## （通貨関連）

区分	種類	前期(平成26年11月17日現在)				当期(平成27年5月18日現在)			
		契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価 (円)	評価損益 (円)	契約額等 (円)	うち 1年超 (円)	時価 (円)	評価損益 (円)
市場 取引 以外 の取 引	為替予約取引 売建 アメリカドル	1,850,734,376	-	1,861,512,310	10,777,934	1,266,058,745	-	1,264,172,000	1,886,745
合計		1,850,734,376	-	1,861,512,310	10,777,934	1,266,058,745	-	1,264,172,000	1,886,745

## （注）1．為替予約の時価の算定方法

- （1）特定期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。  
特定期間末日において為替予約の受渡日（以下「当該日」という。）の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は当該為替予約は当該仲値で評価しております。  
特定期間末日において当該日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。
- ・特定期間末日に当該日を越える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算したレートにより評価しております。
  - ・特定期間末日に当該日を越える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値により評価しております。
- （2）特定期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、特定期間末日の対顧客電信売買相場の仲値により評価しております。
- 2．換算において円未満の端数は切り捨てております。  
3．契約額等および時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （4）【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表（平成27年5月18日現在）

## （イ）株式

該当事項はありません。

## （ロ）株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
親投資信託 受益証券	日本円	JPMアジア・ハイ・イールド債券マザー ファンド（適格機関投資家専用）	652,421,992	1,265,763,906	
合計			652,421,992	1,265,763,906	

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

### 第3 デリバティブ取引および為替予約取引の契約額等および時価の状況表

当表に記載すべき内容は、「デリバティブ取引等に関する注記 取引の時価等に関する事項」に開示しておりますので、記載を省略しております。

（参考）

当ファンドは「JPMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用）」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、全て同親投資信託の受益証券であります。

尚、同親投資信託の状況は以下の通りであります。

「JPMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド（適格機関投資家専用）」の状況

尚、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

（1）貸借対照表

（単位：円）

区分	注記 番号	(平成26年11月17日現在)	(平成27年5月18日現在)
		金額	金額
資産の部			
流動資産			
預金		111,791,975	74,397,222
コール・ローン		11,523,704	96,873
国債証券		23,611,703	24,502,272
特殊債券		70,346,061	23,104,876
社債券		2,619,131,496	1,962,928,933
未収入金		127,043,201	22,982,845
未収利息		47,650,226	33,249,491
前払費用		-	205,964
流動資産合計		3,011,098,366	2,141,468,476
資産合計		3,011,098,366	2,141,468,476
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定		880,886	127,202
未払金		23,288,000	23,810,035
未払解約金		25,252,300	15,487,075
流動負債合計		49,421,186	39,424,312
負債合計		49,421,186	39,424,312
純資産の部			
元本等			
元本	1	1,615,910,367	1,083,454,544
剰余金			
剰余金又は欠損金（ ）		1,345,766,813	1,018,589,620
元本等合計		2,961,677,180	2,102,044,164
純資産合計		2,961,677,180	2,102,044,164
負債純資産合計		3,011,098,366	2,141,468,476



## ( 2 ) 注記表

## ( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

	当財務諸表対象期間
1. 有価証券の評価基準および評価方法	<p>国債証券、特殊債券および社債券 個別法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。</p> <p>(1)金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の最終相場）で評価しております。 計算期間末日に当該金融商品取引所等の最終相場がない場合には、当該金融商品取引所等における直近の日の最終相場で評価しておりますが、直近の日の最終相場によることが適当でない認められた場合は、当該金融商品取引所等における計算期間末日又は直近の日の気配相場で評価しております。</p> <p>(2)金融商品取引所等に上場されていない有価証券 当該有価証券については、原則として、日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融機関の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>(3)時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>
2. デリバティブ等の評価基準および評価方法	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。 為替予約の評価は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。ただし、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定および外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

## （貸借対照表に関する注記）

区分	(平成26年11月17日現在)	(平成27年5月18日現在)
1 本報告書における開示対象ファンドの 期首における当該親投資信託の元本 額、期中追加設定元本額および期中解 約元本額		
期首元本額	3,180,673,951円	1,615,910,367円
期中追加設定元本額	107,589,565円	74,098,352円
期中解約元本額	1,672,353,149円	606,554,175円
本報告書における開示対象ファンドの期末 における元本の内訳（注）		
JP Mアジア・ハイ・イールド債券 ファンド（為替ヘッジなし）	614,442,605円	431,032,552円
JP Mアジア・ハイ・イールド債券 ファンド（為替ヘッジあり）	1,001,467,762円	652,421,992円
合 計	1,615,910,367円	1,083,454,544円
本報告書における開示対象ファンドの特定 期間末日における受益権の総数	1,615,910,367口	1,083,454,544口
1口当たりの純資産額 （1万口当たりの純資産額）	1.8328円 (18,328円)	1.9401円 (19,401円)

（注）当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する注記

	当財務諸表対象期間
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容およびそのリスク	<p>当ファンドが保有した主な金融商品は、国債証券、特殊債券、社債券およびデリバティブ取引であり、当ファンドで利用しているデリバティブ取引は、通貨関連では為替予約取引であります。当ファンドが保有した金融商品およびデリバティブ取引には、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、流動性のリスクがあります。</p> <p>なお、デリバティブ取引は、通貨関連では信託財産の効率的な運用に資する目的として利用しております。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>当ファンドは運用を外部委託しておりますが、投資対象とする金融商品に係るリスク管理体制は次のとおりです。</p> <p>(1)運用部門から独立したインベストメント・ダイレクターおよび外部委託先において運用部門から独立したインベストメント・ダイレクターは、パフォーマンス評価担当部署から報告を受け、運用成果（パフォーマンス）のモニターを行います。さらに外部委託先のインベストメント・ダイレクターは、リスク指標やリスク水準のチェックを行い、必要があれば是正を求めます。</p> <p>(2)リスク管理部門は、投資制限遵守状況の管理等、運用状況の管理・監督を行っています。</p> <p>(3)運用商品部門は外部委託先のリスク管理体制に変更がないか継続的にモニタリングします。運用商品部門の部長はその結果をリスク・コミッティーに報告し、当該報告内容に問題点があった際には、必要に応じてリスク・コミッティーより勧告を受けます。また運用商品部門の部長は、委託先の業務遂行能力に問題があると判断した場合は、業務改善指導、委託解消等の対応策を実施します。</p>

## 金融商品の時価等に関する事項

	各期間末
1. 貸借対照表計上額、時価およびその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませ
2. 時価の算定方法	<p>(1)有価証券 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。一部の債券時価に関しては合理的に算定された価額を採用する場合があります。合理的に算定された価額は発行体の格付けや債券の償還年限を基にした国債に対する上乗せ金利、取引業者からの提示価格、流動性、将来発生しうるキャッシュフロー、その他個々の債券の特性等を考慮して価格提供会社が算出した価格を利用しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 「デリバティブ取引等に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3)有価証券およびデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券およびデリバティブ取引以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	(平成26年11月17日現在)	(平成27年5月18日現在)
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
国債証券	323,703	241,673
特殊債券	418,020	973,870
社債券	17,981,829	7,509,085
合計	18,723,552	6,776,888

## （デリバティブ取引等に関する注記）

## 取引の時価等に関する事項

## （通貨関連）

区分	種類	（平成26年11月17日現在）				（平成27年5月18日現在）			
		契約額等 （円）	うち 1年超 （円）	時価 （円）	評価損益 （円）	契約額等 （円）	うち 1年超 （円）	時価 （円）	評価損益 （円）
市場 取引 以外 の取 引	為替予約取引								
	買建								
	アメリカドル	-	-	-	-	1,000,000	-	999,905	95
	売建								
	アメリカドル	166,000,000	-	166,880,886	880,886	36,000,000	-	36,127,107	127,107
合計		166,000,000	-	166,880,886	880,886	37,000,000	-	37,127,012	127,202

## （注）1．為替予約の時価の算定方法

- （1）計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。  
 計算期間末日において為替予約の受渡日（以下「当該日」という。）の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は当該為替予約は当該仲値で評価しております。  
 計算期間末日において当該日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。
- ・計算期間末日に当該日を越える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物売買相場の仲値をもとに計算したレートにより評価しております。
  - ・計算期間末日に当該日を越える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値により評価しております。
- （2）計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値により評価しております。
- 2．換算において円未満の端数は切り捨てております。  
 3．契約額等および時価の合計欄の金額は、各々の合計金額であります。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （3）附属明細表

## 第1 有価証券明細表（平成27年5月18日現在）

## （イ）株式

該当事項はありません。

## （ロ）株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	銘柄数 比率	券面総額	評価額	備考	
国債証券	アメリカドル	VIETNAM 4.8% NOV24 REGS		200,000.00	204,800.00		
		計	銘柄数：	200,000.00	204,800.00		
						(24,502,272)	
			組入時価比率：	1.2%		1.2%	
	小計				24,502,272		
					(24,502,272)		
特殊債券	アメリカドル	NSB LK 5.15% REGS		200,000.00	193,120.00		
		計	銘柄数：	200,000.00	193,120.00		
						(23,104,876)	
			組入時価比率：	1.1%		1.1%	
	小計				23,104,876		
					(23,104,876)		
社債券	アメリカドル	AGILE PRPTY 9%		200,000.00	200,380.00		
		ALAM SYNERGY 6.95% REGS		600,000.00	582,720.00		
		BW GROUP 6.625% REGS		200,000.00	208,500.00		
		CAR INC 6.125% REGS		200,000.00	207,280.00		

		CENTRAL CHINA 6.5% EMTN		400,000.00	392,680.00	
		CENTRAL CHINA 8%		200,000.00	198,740.00	
		CHALCO VAR		200,000.00	204,500.00	
		CHEUNG KONG 6.625%		200,000.00	202,080.00	
		CHINA AOYUAN 11.25%		200,000.00	197,500.00	
		CHINA FISHERY 9.75% REGS		200,000.00	193,500.00	
		CHINA HONGQIAO 6.875%		200,000.00	200,140.00	
		CHINA O/S L&I 5.25% REGS		200,000.00	203,500.00	
		CHINA OIL&GAS 5%		200,000.00	198,920.00	
		CHINA SCE PPT 11.5% REGS		400,000.00	408,120.00	
		CIFI HLDGS 12.25%		200,000.00	220,580.00	
		CITIC BK INTL VAR		200,000.00	213,740.00	
		CITIC BK INTL VAR 24		300,000.00	321,720.00	
		CITIC LTD VAR REGS		200,000.00	231,280.00	
		CNTRY GARDEN 7.875% REGS		200,000.00	212,780.00	
		FIRST PACIFIC 4.5% REGS		200,000.00	197,740.00	
		FOSUN INTL 6.875% EMTN		400,000.00	419,600.00	
		FUFENG GROUP 7.625% REGS		400,000.00	407,080.00	
		FUTURE LAND 10.25%		200,000.00	204,640.00	
		GREENTOWN CHINA 8.5%		400,000.00	417,480.00	
		INDIKA NRG 6.375% REGS		200,000.00	144,360.00	
		INDO ENERGY 7% REGS		500,000.00	444,150.00	
		JABABEKA INTL 7.5% REGS		400,000.00	403,000.00	
		JG SUMMIT 4.375% REGS		200,000.00	199,500.00	
		JSW STEEL 4.75%		200,000.00	193,520.00	
		KWG PROPERTY 13.25%		200,000.00	219,660.00	
		KWG PROPERTY 8.25%		200,000.00	198,200.00	
		KWG PROPERTY 8.625% REGS		200,000.00	199,200.00	
		LIPPO/THETA 6.125% REGS		215,000.00	217,752.00	
		LONGFOR 6.875% EMTN		400,000.00	418,000.00	
		MEGAWORLD 4.25%		200,000.00	189,870.00	
		MPM GROUP 6.75%		200,000.00	195,120.00	
		NEW WORLD DEV/FITA 7%		200,000.00	227,160.00	
		NWCL 5.375% EMTN		300,000.00	315,270.00	
		OLAM INTL 7.5%		100,000.00	113,400.00	
		R&F PROP/CAIFU8.75% REGS		400,000.00	386,000.00	
		ROAD KING 9.875% REGS		400,000.00	424,800.00	
		SAN MIGUEL 4.875% EMTN		400,000.00	389,440.00	
		SHIMAO PROPERTY 6.625%		400,000.00	407,080.00	
		SHIMAO PROPERTY 8.375%		200,000.00	209,080.00	
		SHUI ON DEV 8.7% 18		600,000.00	606,000.00	
		SOHO CHINA 5.75% REGS		400,000.00	412,160.00	
		STAR ENERGY 6.125% REGS		400,000.00	399,480.00	
		STUDIO CITY 8.5% REGS		500,000.00	503,500.00	
		TATA MOTORS 4.625%		200,000.00	204,580.00	
		TATA STEEL/ABJA 5.95%		200,000.00	204,040.00	
		TEXHONG TEXTILE 6.5%		200,000.00	201,320.00	
		TIMES PROPERTY 11.45%		200,000.00	200,580.00	
		VEDANTA 8.25% REGS		500,000.00	497,300.00	
		WEST CHINA CEMENT 6.5%		300,000.00	302,460.00	
		YANLORD LAND 10.625%REGS		400,000.00	416,840.00	
		YUZHONG PRPTY 11.75% REGS		200,000.00	215,760.00	
		YUZHONG PRPTY 8.625%		300,000.00	303,180.00	
	計	銘柄数 :	57	16,215,000.00	16,406,962.00	
					(1,962,928,933)	

		組入時価比率：	93.4%		97.7%
	小計				1,962,928,933
					(1,962,928,933)
	合計				2,010,536,081
					(2,010,536,081)

(注)各通貨計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

(注)小計・合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および各通貨計欄の合計金額に対する比率であります。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引および為替予約取引の契約額等および時価の状況表

当表に記載すべき内容は、「デリバティブ取引等に関する注記 取引の時価等に関する事項」に開示しておりますので、記載を省略しております。

## 2【ファンドの現況】

### 【純資産額計算書】

< JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド(為替ヘッジなし) >

(平成27年6月19日現在)

種類	金額	単位
資産総額	825,341,149	円
負債総額	4,057,580	円
純資産総額( - )	821,283,569	円
発行済口数	611,029,316	口
1口当たり純資産額( / )	1.3441	円

< JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド(為替ヘッジあり) >

(平成27年6月19日現在)

種類	金額	単位
資産総額	1,179,819,547	円
負債総額	3,142,016	円
純資産総額( - )	1,176,677,531	円
発行済口数	1,235,523,432	口
1口当たり純資産額( / )	0.9524	円

(参考) GIMアジア・ハイ・イールド債券マザーファンド (適格機関投資家専用)

(平成27年6月19日現在)

種類	金額	単位
資産総額	1,989,422,330	円
負債総額	6,924,252	円
純資産総額( - )	1,982,498,078	円

発行済口数	994,071,809	口
1口当たり純資産額( / )	1.9943	円



### 第三部【委託会社等の情報】

#### 第1【委託会社等の概況】

##### 1【委託会社等の概況】

原届出書の「第三部委託会社等の情報 第1委託会社等の概況 1委託会社等の概況」について、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

資本金の額（平成27年6月末現在）

資本金の額	2,218百万円
会社が発行する株式の総数	70,000株
発行済株式総数	56,265株

会社の意思決定機構

取締役会は、会社の業務執行上重要な事項を決定し、その決議は、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって行われます。

取締役は、株主総会において選任され、任期は選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。増員により、または補欠として選任された取締役の任期は、他の在任取締役の任期の満了する時までとします。

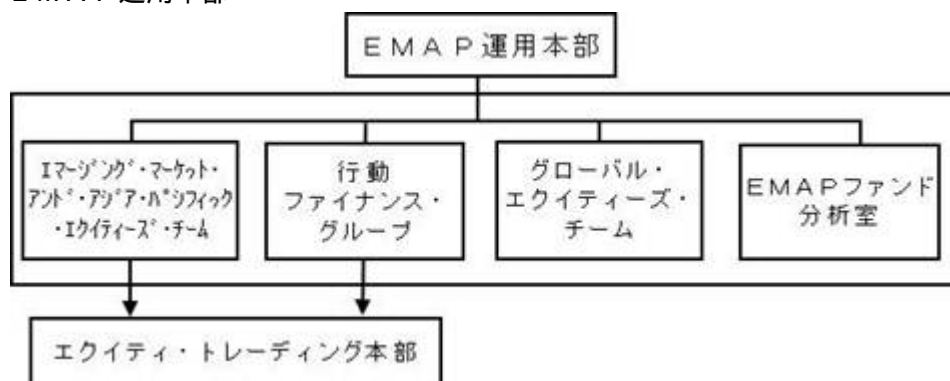
また、取締役会は以下の事項（法令上取締役会の決議事項とされているものを除きます。）を決議または審議することを以下の機関に委任しています。

（イ）業務執行にかかる重要な事項（リスク管理に関する事項を除きます。）：経営委員会

（ロ）リスク管理上の重要な事項：リスク・コミッティー

投資運用の意思決定機構

（イ）EMAP運用本部



（a）EMAP運用本部は、EMAP株式運用ストラテジー\*、行動ファイナンス株式運用ストラテジー\*またはMDPコクサイ株式運用ストラテジー\*に基づいた運用を行います。

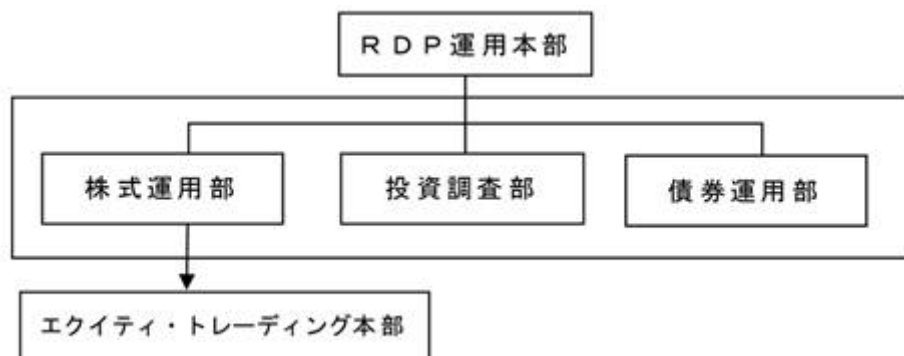
\* 「EMAP株式運用ストラテジー」は、企業取材を基本とする徹底的なボトムアップ・アプローチによる調査・分析を行い、企業の成長力に比べて株価が割安な銘柄に投資することにより、超過収益の獲得を目指す運用を行います。

「行動ファイナンス株式運用ストラテジー」は、「人間の心理」が引き起こす「株の売られ過ぎ」、「過小評価」等の非効率性を捉え、超過収益の獲得を目指す運用を行います。

「MDPコクサイ株式運用ストラテジー」は、世界各地（現地）のベスト・アイデアを基に、アナリストによるグローバル（地域横断的）な業種分析を加え、最終的にポートフォリオ・マネジャーの判断で運用を行います。

- (b) E M A P運用本部では、運用業務遂行上必要と認められる諸会議を開催します。各会議にて、E M A P株式運用ストラテジー、行動ファイナンス株式運用ストラテジーまたはM D Pコクサイ株式運用ストラテジーに基づいた国内外の株式、その他資産の運用戦略の方向性を決定します。
- (c) エマージング・マーケット・アンド・アジア・パシフィック・エクイティーズ・チームは、J . P . モルガン・アセット・マネジメントの海外拠点からの情報を参考に、E M A P株式運用ストラテジーに基づき国内株式およびアジア株式の運用戦略の方向性を決定し、その内容を自らの投資判断に利用します。また、同チームが行う国内株式およびアジア株式の運用や海外関係会社に運用を委託しているE M A P株式運用ストラテジーによる外国株式の運用等について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。
- (d) 行動ファイナンス・グループは、行動ファイナンス株式運用ストラテジーに基づき主に国内外の株式の運用戦略の方向性を決定し、その内容を自らの投資判断に利用します。また、同グループが行う国内外の株式の運用について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。
- (e) グローバル・エクイティーズ・チームは、J . P . モルガン・アセット・マネジメントの海外拠点からの情報を参考に、M D Pコクサイ株式運用ストラテジーに基づき外国株式の投資判断を行います。また、同チームが行う外国株式の運用について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。
- (f) エクイティ・トレーディング本部は、前記(c)・(d)のチームおよびグループによる投資判断を受け、主に国内株式の売買を執行します。
- (g) E M A Pファンド分析室は、運用実績の分析を行い、前記(c)・(d)のチームおよびグループにその結果を提供します。

(ロ) R D P運用本部



- (a) R D P運用本部は、投資調査部、株式運用部および債券運用部で構成されます。投資調査部および株式運用部は、R D P株式運用ストラテジー\*に基づいた運用を行います。
- \* 「R D P株式運用ストラテジー」は、個別企業の徹底した調査・分析に配当割引モデルによる客観的評価を加えることにより、超過収益の獲得を目指す運用を行います。
- (b) 投資調査部に所属するアナリストはR D P株式運用ストラテジーに基づき主に国内株式の分析を行い、その結果に基づき各銘柄に評価を付します。同部に所属するエコノミストは、マクロ経済の観点からアナリストの調査・分析の基となる情報の提供を行います。
- (c) 株式運用部に所属するポートフォリオ・マネジャーは、投資調査部のアナリストとの議論を通じて、前記(b)の評価を検証の上、投資判断を行い、主に国内株式のポートフォリオの構築を行います。また、同部が行う国内株式の運用について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。
- (d) 債券運用部では、国内外の債券の運用業務遂行上必要と認められる諸会議を開催し、運用戦略の方向性を決定します。その決定内容を自らの投資判断に利用し、国内外の債券のポートフォリオを

決定します。また国内外の債券の売買を執行します。さらに、同部が行う国内外の債券の運用について、関係各部署と連携し、顧客、投資家、販売会社およびコンサルタント会社への商品内容説明、販売支援、新商品の企画立案等に関する事項を行います。

(e) エクイティ・トレーディング本部は、株式運用部所属のポートフォリオ・マネジャーの投資判断を受け、主に国内株式の売買を執行します。

(ハ) 前記(イ)および(ロ)以外に為替ヘッジを行う場合は、クライアント・ビジネス本部のグローバル運用商品部およびグローバル債券商品部が為替ヘッジのための投資判断を行い、債券運用部が取引を執行します。

(注) 前記(イ)、(ロ)および(ハ)の意思決定機構、組織名称等は、平成27年6月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

< 訂正前 >

(略)

委託会社が設定・運用している投資信託は、平成26年12月末現在以下のとおりです(親投資信託は本数のみ。)

	本数	純資産額(百万円)
公募追加型株式投資信託	71	782,055
公募単位型株式投資信託	3	11,330
公募追加型債券投資信託	1	277,357
公募単位型債券投資信託	-	-
私募投資信託	62	1,118,141
総合計	137	2,188,883
親投資信託	62	-

(注) 百万円未満は四捨五入

< 訂正後 >

(略)

委託会社が設定・運用している投資信託は、平成27年6月末現在以下のとおりです(親投資信託は本数のみ。)

	本数	純資産額(百万円)
公募追加型株式投資信託	73	712,817
公募単位型株式投資信託	1	2,503
公募追加型債券投資信託	1	371,625
公募単位型債券投資信託	-	-
私募投資信託	64	1,420,101
総合計	139	2,507,046
親投資信託	60	-

(注) 百万円未満は四捨五入

### 3【委託会社等の経理状況】

原届出書の「第三部委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況」について、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

1．委託会社であるJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号。以下「金融商品取引業等に関する内閣府令」という。）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2．当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第25期事業年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。

## ( 1 ) 【貸借対照表】

		第24期 (平成26年3月31日)			第25期 (平成27年3月31日)		
資産の部							
区分	注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
流動資産							
現金及び預金			4,762,304			5,106,838	
有価証券			6,612,688			5,814,310	
前払費用			17,287			23,442	
未収入金			105,641			5,649	
未収委託者報酬			3,816,329			2,937,836	
未収収益			2,374,601			1,674,281	
関係会社短期貸付金			995,000			4,198,000	
繰延税金資産			301,507			287,554	
その他			5,554			4,598	
流動資産計			18,990,915	93.5		20,052,511	97.5
固定資産							
投資その他の資産			1,327,789			508,181	
関係会社株式		60,000			60,000		
投資有価証券		844,160			30		
敷金保証金		41,662			27,826		
長期預け金		207,602			254,907		
前払年金費用		-			15,157		
繰延税金資産		136,043			111,940		
その他		38,319			38,319		
固定資産計			1,327,789	6.5		508,181	2.5
資産合計			20,318,704	100.0		20,560,692	100.0

		第24期 (平成26年3月31日)			第25期 (平成27年3月31日)		
負債の部							
区分	注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
流動負債							
預り金			94,926			103,500	
未払金			3,120,393			2,497,510	
未払手数料		1,836,553			1,393,063		
その他未払金		1,283,840			1,104,446		
未払費用			810,217			607,479	
未払法人税等			1,624,850			523,529	
賞与引当金			387,239			454,023	
流動負債計			6,037,627	29.7		4,186,042	20.3
固定負債							
長期未払金			197,717			241,635	
賞与引当金			416,452			551,281	
役員賞与引当金			115,441			166,514	
退職給付引当金			747			-	
固定負債計			730,358	3.6		959,431	4.7
負債合計			6,767,985	33.3		5,145,474	25.0

		第24期 (平成26年3月31日)			第25期 (平成27年3月31日)		
純資産の部							
区分	注記 番号	内訳	金額	構成比	内訳	金額	構成比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
株主資本							
資本金			2,218,000	10.9		2,218,000	10.8
資本剰余金			1,000,000	4.9		1,000,000	4.9
資本準備金		1,000,000			1,000,000		
利益剰余金			10,304,297	50.8		12,197,218	59.3
利益準備金		33,676			33,676		
その他利益剰余金							
繰越利益剰余金		10,270,621			12,163,541		
株主資本計			13,522,297	66.6		15,415,218	75.0
評価・換算差額等							
その他有価証券評価差額金			28,421	0.1		0	0.0
評価・換算差額等計			28,421	0.1		0	0.0
純資産合計			13,550,719	66.7		15,415,218	75.0
負債・純資産合計			20,318,704	100.0		20,560,692	100.0

## ( 2 ) 【損益計算書】

区分	注記 番号	第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)			第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)		
		内訳	金額	百分比	内訳	金額	百分比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
営業収益							
委託者報酬			16,395,693			14,958,037	
運用受託報酬			7,689,534			7,150,457	
業務受託報酬			1,749,164			1,444,725	
その他営業収益			145,316			217,968	
営業収益計			25,979,707	100.0		23,771,189	100.0
営業費用							
支払手数料			7,582,948			6,858,986	
広告宣伝費			269,630			175,701	
調査費			3,024,605			2,534,082	
委託調査費		2,706,010			2,190,630		
調査費		311,043			336,635		
図書費		7,551			6,816		
委託計算費			330,320			325,399	
営業雑経費			369,049			278,190	
通信費		37,502			34,824		
印刷費		300,594			210,817		
協会費		25,734			28,224		
諸会費		5,218			4,324		
営業費用計			11,576,555	44.6		10,172,360	42.8



区分	注記 番号	第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)			第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)		
		内訳	金額	百分比	内訳	金額	百分比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
一般管理費							
給料			5,802,911			5,415,944	
役員報酬		166,939			156,686		
給料・手当		3,536,324			3,530,140		
賞与		1,006,212			669,872		
賞与引当金繰入額		699,012			820,377		
役員賞与		128,462			119,510		
役員賞与引当金繰入額		85,067			116,507		
その他の報酬		180,892			2,850		
福利厚生費			417,435			400,758	
交際費			63,496			44,897	
寄付金			13,104			4,325	
旅費交通費			234,821			196,309	
租税公課			86,412			86,746	
不動産賃借料			1,126,340			1,118,499	
退職給付費用			302,703			299,251	
退職金			16,818			178,441	
消耗器具備品費			111,396			104,556	
事務委託費			280,201			344,282	
関係会社等配賦経費			1,935,627			2,290,299	
諸経費			147,574			133,331	
一般管理費計			10,538,845	40.6		10,617,643	44.7
営業利益			3,864,307	14.8		2,981,184	12.5

区分	注記 番号	第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)			第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)		
		内訳	金額	百分比	内訳	金額	百分比
		(千円)	(千円)	(%)	(千円)	(千円)	(%)
営業外収益							
受取配当金	1	82,702			112,067		
投資有価証券売却益		-			91,709		
受取利息	1	5,865			12,700		
分配金・償還金時効		890			-		
その他営業外収益		15,923			39,358		
営業外収益計			105,381	0.4		255,835	1.1
営業外費用							
為替差損		18,742			22,171		
事務処理損失		153,469			-		
その他営業外費用		12,122			1,239		
営業外費用計			184,334	0.7		23,411	0.1
経常利益			3,785,354	14.5		3,213,608	13.5
税引前当期純利益			3,785,354	14.5		3,213,608	13.5
法人税、住民税及び事業税			1,607,119	6.1		1,266,892	5.3
法人税等調整額			104,735	0.4		53,795	0.2
当期純利益			2,282,970	8.8		1,892,920	8.0

## ( 3 ) 【株主資本等変動計算書】

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	2,218,000	1,000,000	1,000,000	33,676	7,987,651	8,021,327	11,239,327
当期変動額							
当期純利益	-	-	-	-	2,282,970	2,282,970	2,282,970
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	2,282,970	2,282,970	2,282,970
当期末残高	2,218,000	1,000,000	1,000,000	33,676	10,270,621	10,304,297	13,522,297

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	-	-	11,239,327
当期変動額			
当期純利益	-	-	2,282,970
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28,421	28,421	28,421
当期変動額合計	28,421	28,421	2,311,391
当期末残高	28,421	28,421	13,550,719

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合計
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	2,218,000	1,000,000	1,000,000	33,676	10,270,621	10,304,297	13,522,297
当期変動額							
当期純利益	-	-	-	-	1,892,920	1,892,920	1,892,920
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	1,892,920	1,892,920	1,892,920
当期末残高	2,218,000	1,000,000	1,000,000	33,676	12,163,541	12,197,218	15,415,218

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有 価証券評 価差額金	評価・換 算差額等 合計	
当期首残高	28,421	28,421	13,550,719
当期変動額			
当期純利益	-	-	1,892,920
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	28,421	28,421	28,421
当期変動額合計	28,421	28,421	1,864,499
当期末残高	0	0	15,415,218

## 重要な会計方針

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 関係会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) その他有価証券

##### 時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

##### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2. 引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給、及び親会社の運営する株式報酬制度に係る将来の費用負担に備えるため、当事業年度に帰属する額を計上しております。

#### (2) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給、及び親会社の運営する株式報酬制度に係る将来の費用負担に備えるため、当事業年度に帰属する額を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員に対する退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務と年金資産の見込額に基づき退職給付引当金を計上しております。ただし、当事業年度末においては、年金資産の額が、退職給付債務に未認識数理計算上の差異等を加減した額を超過するため、資産の部に前払年金費用を計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により、発生した事業年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分額を、それぞれ発生した翌事業年度から費用処理することとしております。

### 3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 注記事項

## （貸借対照表関係）

第24期 （平成26年3月31日）	第25期 （平成27年3月31日）
関係会社項目 関係会社に対する資産および負債には区分 掲記されたもの以外に注記すべき事項はあり ません。	関係会社項目  同左

## （損益計算書関係）

第24期 （自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）	第25期 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）
1 関係会社との取引に係るものが次のとおり 含まれております。 関係会社からの受取利息 5,865千円 関係会社からの受取配当金 80,000千円	1 関係会社との取引に係るものが次のとおり 含まれております。 関係会社からの受取利息 12,699千円 関係会社からの受取配当金 110,000千円

## （株主資本等変動計算書関係）

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	56,265	-	-	56,265
合計	56,265	-	-	56,265

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	56,265	-	-	56,265
合計	56,265	-	-	56,265

## （リース取引関係）

第24期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	第25期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は以下のとおりであります。	オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は以下のとおりであります。
1年以内                      542,064千円	1年以内                      513,906千円
1年超                         581,751千円	1年超                         61,652千円
<u>合計                            1,123,816千円</u>	<u>合計                            575,559千円</u>

## （金融商品関係）

## (1) 金融商品の状況に関する事項

## 金融商品に対する取組方針

一時的な余資は主に流動性の高い公社債投資信託で運用しております。

自社が設定する投資信託やグループ会社が運用する投資信託について、その設定時に運用上十分な信託財産があることが見込めない場合に、「シードキャピタル」として当該投資信託を自己資金により取得することがあります。

当社は、営業活動援助のため、子会社であるJPMAM Japan Cayman Fund Limitedへの短期貸付を行っております。

## 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権のうち、自社が設定・運用する投資信託から受領する未収委託者報酬、及び未収収益のうち国内年金基金等から受領する債権については信託銀行により分別管理されている信託財産から回収され、一般債権とは異なり、信用リスクは極めて低いと認識しております。海外グループ会社に対する未収収益は未払費用と部分的に相殺され、信用リスクが軽減されております。また、外貨建て債権の未収収益については為替の変動リスクに晒されておりますが、外貨建て債務と部分的に相殺され、為替変動リスクが軽減されております。

営業債務である未払金は基本的に3ヶ月以内の支払い期日であり、未払手数料、及び未払費用についてはそのほとんどが6ヶ月以内の支払い期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、上述の通り外貨建て債権と部分的に相殺され、リスクが軽減されております。

有価証券は、預金と同様の性質を有する流動性の高い公社債投資信託であり、市場リスクは極めて低いと認識しております。

関係会社に対し短期貸付を行っており、関係会社短期貸付金は貸出先の信用リスクに晒されております。関係会社短期貸付金は、3ヶ月の期日であり、金利の変動リスクは僅少です。

投資有価証券は、上述のシードキャピタルであり、市場価格の変動リスクに晒されております。

## 金融商品に係るリスク管理体制

## (i) 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権のうち、海外グループ会社に対する未収収益は担当部署が各関係会社ごとに期日及び残高を定期的に管理し、回収懸念の早期把握を図っております。

関係会社短期貸付金は、子会社であるJPMAM Japan Cayman Fund Limitedの営業活動から得られるキャッシュ・フローをモニタリングしており、貸倒や回収遅延の懸念はほぼないと認識しております。

## ( ) 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

外貨建ての営業債権債務のうち、大半を占める米国ドル建ての債権債務に対しての為替変動リスクについては担当部署が月次でモニタリングしており、債権もしくは債務の超過に対して米国ドル建て預金と円建て預金との間で資金移動をして為替変動リスクの軽減に努めております。

( ) 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

各部署からの報告に基づき担当部署が適宜資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、金額的重要性が低いと判断するものは次表には含めておりません。また、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含めておりません(注)2.参照)。

第24期(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	4,762,304	4,762,304	-
(2) 有価証券	6,612,688	6,612,688	-
(3) 未収委託者報酬	3,816,329	3,816,329	-
(4) 未収収益	2,374,601	2,374,601	-
(5) 関係会社短期貸付金	995,000	995,000	-
(6) 投資有価証券	844,160	844,160	-
(7) 長期預け金	207,602	207,268	333
資産計	19,612,687	19,612,353	333
(1) 未払手数料	1,836,553	1,836,553	-
(2) その他未払金	1,283,840	1,283,840	-
(3) 未払費用	810,217	810,217	-
(4) 長期未払金	197,717	197,399	318
負債計	4,128,327	4,128,009	318

(注)1. 金融商品の時価算定方法

#### 資産

(1) 現金及び預金、(2) 有価証券、(3) 未収委託者報酬、(4) 未収収益及び(5) 関係会社短期貸付金  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(6) 投資有価証券

これらは投資信託であり、時価は市場価格に準ずるものとして合理的に算定された価額によっております。

(7) 長期預け金

長期預け金の時価については、当該預け金の受取までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

#### 負債



## (1) 未払手数料、(2) その他未払金、及び(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (4) 長期未払金

長期未払金の時価については、当該未払金の支払までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

## (注) 2 . 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
関係会社株式	60,000

関係会社株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、上表に含めておりません。

第25期（平成27年3月31日）

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	5,106,838	5,106,838	-
(2) 有価証券	5,814,310	5,814,310	-
(3) 未収委託者報酬	2,937,836	2,937,836	-
(4) 未収収益	1,674,281	1,674,281	-
(5) 関係会社短期貸付金	4,198,000	4,198,000	-
(6) 投資有価証券	30	30	-
(7) 長期預け金	254,907	254,839	68
資産計	19,986,203	19,986,135	68
(1) 未払手数料	1,393,063	1,393,063	-
(2) その他未払金	1,104,446	1,104,446	-
(3) 未払費用	607,479	607,479	-
(4) 長期未払金	241,635	241,571	64
負債計	3,346,624	3,346,560	64

## (注) 1 . 金融商品の時価算定方法

資産

- (1) 現金及び預金、(2) 有価証券、(3) 未収委託者報酬、(4) 未収収益及び(5) 関係会社短期貸付金  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (6) 投資有価証券  
これらは投資信託であり、時価は市場価格に準ずるものとして合理的に算定された価額によっております。
- (7) 長期預け金  
長期預け金の時価については、当該預け金の受取までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

負債

- (1) 未払手数料、(2) その他未払金、及び(3) 未払費用  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (4) 長期未払金  
長期未払金の時価については、当該未払金の支払までの期間を基に、日本国債の利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

## (注) 2 . 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
関係会社株式	60,000

関係会社株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、上表に含めておりません。

## 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## (3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第24期（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	4,762,304	-	-	-
未収委託者報酬	3,816,329	-	-	-
未収収益	2,374,601	-	-	-
関係会社短期貸付金	995,000	-	-	-
合計	11,948,235	-	-	-

第25期（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	5,106,838	-	-	-
未収委託者報酬	2,937,836	-	-	-
未収収益	1,674,281	-	-	-
関係会社短期貸付金	4,198,000	-	-	-
合計	13,916,956	-	-	-

## （有価証券関係）

## 1．関係会社株式

関係会社株式（第24期の貸借対照表計上額は60,000千円、第25期の貸借対照表計上額は60,000千円）については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、記載しておりません。

## 2．その他有価証券

第24期（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	その他投資信託	844,160	800,000	44,160
合計		844,160	800,000	44,160

（注）有価証券（貸借対照表計上額 6,612,688千円）については預金と同様に扱っており、時価評価をしていないため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

第25期（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	その他投資信託	20	20	0
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	その他投資信託	9	10	0
合計		30	30	0

（注）有価証券（貸借対照表計上額 5,814,310千円）については預金と同様に扱っており、時価評価をしていないため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 3．当事業年度中に売却したその他有価証券

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

該当事項はありません。

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他投資信託	913,709	91,709	-

## （退職給付関係）

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

## 1．採用している退職給付制度の概要

当社は確定拠出型年金制度、及びキャッシュバランス型年金制度を採用しております。

## 2．キャッシュバランス型年金制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	（千円）
退職給付債務の期首残高	1,036,743
勤務費用	201,567
利息費用	10,367
数理計算上の差異の発生額	18,396
退職給付の支払額	74,432
退職給付債務の期末残高	1,192,641

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	（千円）
年金資産の期首残高	1,019,609
期待運用収益	11,216
数理計算上の差異の発生額	116,026
事業主からの拠出額	209,216
退職給付の支払額	74,432
年金資産の期末残高	1,281,635

## (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	（千円）
積立型制度の退職給付債務	1,192,641
年金資産	1,281,635
	88,994
未認識数理計算上の差異	80,496
未認識過去勤務費用	9,245
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	747
退職給付引当金	747
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	747

## (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	（千円）
勤務費用	201,567
利息費用	10,367
期待運用収益	11,216
数理計算上の差異の費用処理額	5,985
過去勤務債務の費用処理額	5,404
その他（注1）	26,154
キャッシュバランス型年金制度に係る退職給付費用（注2）	227,453

（注1）その他の金額は、主に当社への出向者分の退職給付費用であります。

（注2）当社からの出向者分の退職給付費用は、上記金額に含まれておりません。

## (5) 年金資産に関する事項

## 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	60.4%
株式	21.8%
現金及び預金	17.8%
合計	100.0%

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 1.00%

長期期待運用収益率 1.10%

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は75,250千円であります。

第25期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定拠出型年金制度、及びキャッシュバランス型年金制度を採用しております。

2. キャッシュバランス型年金制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)
退職給付債務の期首残高	1,192,641
勤務費用	203,483
利息費用	11,926
数理計算上の差異の発生額	22,099
退職給付の支払額	127,024
退職給付債務の期末残高	1,303,125

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)
年金資産の期首残高	1,281,635
期待運用収益	14,098
数理計算上の差異の発生額	115,243
事業主からの拠出額	205,589
退職給付の支払額	127,024
年金資産の期末残高	1,489,541

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	(千円)
積立型制度の退職給付債務	1,303,125
年金資産	1,489,541
	186,416
未認識数理計算上の差異	167,491
未認識過去勤務費用	3,841
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	15,084
前払年金費用	15,084
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	15,084

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)
勤務費用	203,483
利息費用	11,926
期待運用収益	14,098
数理計算上の差異の費用処理額	6,219
過去勤務債務の費用処理額	5,404
その他(注1)	21,087
キャッシュバランス型年金制度に係る退職給付費用(注2)	210,775

(注1) その他の金額は、主に当社への出向者分の退職給付費用であります。

(注2) 当社からの出向者分の退職給付費用は、上記金額に含まれておりません。

(5) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	47.6%
株式	24.9%
現金及び預金	27.5%
合計	100.0%

#### 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

#### (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 1.00%

長期期待運用収益率 1.10%

#### 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は88,476千円であります。



## （税効果会計関係）

## 1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第24期 (平成26年3月31日)	第25期 (平成27年3月31日)
(流動)	(千円)	(千円)
繰延税金資産		
未払費用	41,107	13,314
未払事業税	117,202	41,425
賞与引当金	138,012	225,942
その他	5,185	6,872
繰延税金資産合計	301,507	287,554
繰延税金資産の純額	301,507	287,554
(固定)	(千円)	(千円)
繰延税金資産		
賞与引当金	148,423	121,126
長期未払費用	81,090	78,115
その他	12,537	6,233
繰延税金資産小計	242,052	205,475
評価性引当額	90,269	93,534
繰延税金資産合計	151,783	111,940
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	15,738	-
繰延税金資産又は繰延税金負債( )の純額	136,043	111,940

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	第24期 (平成26年3月31日)	第25期 (平成27年3月31日)
法定実効税率	38.01%	35.64%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.59%	5.17%
評価性引当額	3.84%	0.10%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.62%	1.04%
その他	0.31%	0.86%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	39.69%	41.10%

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.64%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については33.1%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、32.34%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額は33,488千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

（セグメント情報等）

## セグメント情報

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 関連情報

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

### 1. サービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業務	投資一任及び 投資助言業務	業務受託報酬	その他	合計
外部顧客への売上高	16,395,693	7,689,534	1,749,164	145,316	25,979,707

### 2. 地域ごとの情報

#### 営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
21,952,998	4,026,709	25,979,707

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

### 1. サービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業務	投資一任及び 投資助言業務	業務受託報酬	その他	合計
外部顧客への売上高	14,958,037	7,150,457	1,444,725	217,968	23,771,189

### 2. 地域ごとの情報

#### 営業収益

（単位：千円）

日本	その他	合計
19,644,646	4,126,543	23,771,189

（注）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## （関連当事者情報）

## 1. 関連当事者との取引

第24期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

## 子会社

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
子会社	JPMAM Japan Cayman Fund Limited	ケイマン諸島 グランドケイマン	3,500千円	外国投資信託の管理会社としての業務	所有直接100%	資金の貸借等及び役員の兼任	資金の貸付（注）	5,577,000	関係会社 短期貸付金	995,000
							資金の回収	5,812,000		
							受取利息	5,865	未収収益	2,290
							配当の受取	80,000	-	-

## （注）取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の貸付については、貸付利率は市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、返済条件は期間3ヶ月であります。なお、担保は受け入れておりません。

## 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
最終的な親会社がある会社	JPMorgan Asset Management (UK) Limited	英国 ロンドン	24百万ポンド	投資運用業	なし	投資の助言または投資一任（当社からの運用再委託）	調査費	1,612,349	未払費用	368,943
最終的な親会社がある会社	ジェー・ピー・モルガン・サービス・ジャパン・リミテッド 東京支店	東京都 千代田区	1千米ドル	不動産の売買・賃貸借および総務の代行業等	なし	総務の代行	事務所退去費用の預け入れ	32,685	長期預け金	207,602

（注1）ジェー・ピー・モルガン・サービス・ジャパン・リミテッド東京支店に関するものを除き、取引金額および期末残高には、消費税等は含まれておりません。

## （注2）取引条件及び取引条件の決定方針等

調査費に関しては、運用の再委託の一般的な手数料率を勘案し、協議の上、再委託契約を結んで行っております。

長期預け金に関しては、当初預け入れ時より無利息としております。

第25期（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

## 子会社

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
子会社	JPMAM Japan Cayman Fund Limited	ケイマン諸島 グランドケイマン	3,500千円	外国投資信託の管理会社としての業務	所有直接100%	資金の貸借等及び役員の兼任	資金の貸付（注）	15,535,000	関係会社 短期貸付金	4,198,000
							資金の回収	12,332,000		
							受取利息	12,699	未収収益	1,611
							配当の受取	110,000	-	-

## （注）取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の貸付については、貸付利率は市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、返済条件は期間3ヶ月であります。なお、担保は受け入れておりません。

## 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
----	--------	-----	----------	-------	----------------	-----------	-------	----------	----	----------

最終的な親会社 が同一である 会社	JPMorgan Asset Management (UK) Limited	英国 ロンドン	24百万 ポンド	投資 運用業	なし	投資の助言ま たは投資一任 (当社からの 運用再委託)	調査費	1,419,787	未払費用	334,497
最終的な親会社 が同一である 会社	ジェー・ピー・ モルガン・サー ビス・ジャパ ン・リミテッド 東京支店	東京都 千代田区	1千 米ドル	不動産の 売買・賃 貸借およ び総務の 代行業等	なし	総務の代行	事務所退 去費用の 預け入れ	47,304	長期預け金	254,907

(注1) ジェー・ピー・モルガン・サービス・ジャパン・リミテッド東京支店に関するものを除き、取引金額および期末残高には、消費税等は含まれておりません。

(注2) 取引条件及び取引条件の決定方針等

調査費に関しては、運用の再委託の一般的な手数料率を勘案し、協議の上、再委託契約を結んで行っております。

長期預け金に関しては、当初預け入れ時より無利息としております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

### 親会社情報

直接親会社 J P モルガン・アセット・マネジメント(アジア)インク(非上場)

最終的な親会社 J P モルガン・チェース・アンド・カンパニー

## （ 1 株当たり情報）

	第24期 （自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）	第25期 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）
1株当たり純資産額	240,837.45円	273,975.27円
1株当たり当期純利益	40,575.31円	33,642.95円

なお、当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

## 1株当たりの当期純利益の算定上の基礎

	第24期 （自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）	第25期 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）
損益計算書上の当期純利益	2,282,970千円	1,892,920千円
普通株主に帰属しない金額	-	-
普通株式に係る当期純利益	2,282,970千円	1,892,920千円
普通株式の期中平均株式数	56,265株	56,265株

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

原届出書の「第三部委託会社等の情報 第2 その他の関係法人の概況 1 名称、資本金の額及び事業の内容」について、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

## (1) 受託会社

名 称 三菱UFJ信託銀行株式会社

資本金の額 324,279百万円（平成27年3月末現在）

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

<再信託受託会社の概要>

名 称：日本マスタートラスト信託銀行株式会社

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（日本マスタートラスト信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

## (2) 運用委託先の会社

名 称	資本金の額 （平成27年3月末現在）	事業の内容
JFアセット・マネジメント・リミテッド	60百万香港ドル	投資運用業務および投資顧問業務を行っています。

## (3) 販売会社

	名 称	資本金の額 （平成27年3月末現在）	事業の内容
1	J P モルガン証券株式会社	73,272百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
2	株式会社SBI証券	47,937百万円	同 上
3	常陽証券株式会社	3,000百万円	同 上
4	楽天証券株式会社	7,495百万円	同 上
5	マネックス証券株式会社	12,200百万円	同 上
6	八十二証券株式会社	800百万円	同 上
7	ふくおか証券株式会社	2,198百万円	同 上
8	株式会社あおぞら銀行	100,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。

9	株式会社十六銀行	36,839百万円	同 上
10	株式会社千葉銀行	145,069百万円	同 上



## 独立監査人の監査報告書

平成27年6月30日

J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

### あらた監査法人

指定社員 公認会計士 荒川 進  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 和田 渉  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているJPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）の平成26年11月18日から平成27年5月18日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジなし）の平成27年5月18日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

JPMモルガン・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

平成27年6月30日

J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

### あらた監査法人

指定社員 公認会計士 荒川 進  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 和田 渉  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているJPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）の平成26年11月18日から平成27年5月18日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、JPMアジア・ハイ・イールド債券ファンド（為替ヘッジあり）の平成27年5月18日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

平成27年6月19日

J P モルガン・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

### あらた監査法人

指定社員 公認会計士 荒川 進  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているJ P モルガン・アセット・マネジメント株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、J P モルガン・アセット・マネジメント株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。